

(様式第 10)

弘大病経第 234 号
令和 2 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

弘前大学医学部附属病院長
大 山

弘前大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和 23 年法律第 205 号)第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則(昭和 23 年厚生省令第 50 号)第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
氏 名	国立大学法人弘前大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

弘前大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地	電話(0172)33-5111
---------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	8代謝内科
⑨感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			
5神経内科：脳神経内科にて診療を提供			
8代謝内科：糖尿病・代謝内科にて診療を提供			
10アレルギー疾患内科またはアレルギー科：小児科、皮膚科及び耳鼻咽喉科にて診療を提供			
11リウマチ科：整形外科及び内科にて診療を提供			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していな

い診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績 7内分泌外科：乳腺外科及び外科にて診療を提供	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腫瘍内科 2糖尿病・代謝内科 3形成外科 4病理診断科 5リハビリテーション科 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	6床	0床	0床	597床	644床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	368人	11人	372.2人	看護補助者	49人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	19人	0人	19.0人	理学療法士	11人	臨床検査技師	45人
薬 剤 師	29人	0人	29.0人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	21人	0人	21.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	601人	23人	618.7人	臨床工学士	23人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	17人
歯科衛生士	0人	3人	2.3人	歯科技工士	1人	事務職員	159人
管理栄養士	7人	0人	7.0人	診療放射線技師	41人	その他の職員	14人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	52人	眼科専門医	7人
外科専門医	28人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	4人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	6人
皮膚科専門医	11人	整形外科専門医	18人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	11人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	6人
		合 計	195人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大山 力) 任命年月日 令和2年4月1日

H24. 4. 1 ~ H28. 9. 30	リスクマネジメント対策委員会委員
H28. 10. 1 ~ R 2. 3. 31	医療安全管理委員会委員長 (医療安全管理責任者)
R 2. 4. 1 ~ 現在	医療安全管理委員会委員 (病院長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	474.8人	10.0人	484.9人
1日当たり平均外来患者数	1,559.3人	49.6人	1,609.0人
1日当たり平均調剤数			2,101.2剤
必要医師数			138人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			27人
必要(准)看護師数			299人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	793 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	26床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 43 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	3床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 175 m ² [共用室の場合] 共用する室名 薬剤部薬物療法支援室					
化学検査室	300m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 免疫発光測定装置・電気化学発光測定装置 等			
細菌検査室	117m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) BHC-1607 II A2・高圧蒸気滅菌装置・テーブルトップ遠心機 等			
病理検査室	148m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動染色装置・検体前処理装置 等			
病理解剖室	66m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ホルマリン希釈混合装置・電動解剖鋸 等			
研究室	10,356m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 遺伝子発現・薬剤分析システム・パーソナル次世代シーケンサー 等			
講義室	274m ²	鉄骨	室数	1室	収容定員	205人
図書室	1,341m ²	鉄筋コンクリート	室数	3室	蔵書数	15万7千冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	91.9 %	逆紹介率	83.7 %
算出根拠	A：紹介患者の数			10,895 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			10,928 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			1,103 人
	D：初診の患者の数			13,052 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤野 安弘	青森県立中央病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ 無	1
相馬 悌	黒石市国民健康保険黒石病院 院長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ 無	1
長谷河 亜希子	弘前大学人文社会科学部 公共政策講座 准教授		法律に関する識見を有する	有・ 無	1
齋藤 久子	元青森大学准教授		医療を受ける者	有・ 無	2
大門 眞	弘前大学大学院 医学研究科 内分泌代謝内科学講座 教授 (副病院長)		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 ・無	1
加藤 博之	弘前大学大学院 医学研究科 総合診療医学講座 教授 (病院長補佐)		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 ・無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	48人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	10人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテーラーメイドのがんワクチン療法	0人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 子宮頸がん	4人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺癌(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	4人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	LC-SCRUMによる肺癌遺伝子解析	取扱患者数	29 人
当該医療技術の概要 希少な遺伝子異常も含めて網羅的に解析し、治療、新規薬剤の治験参加に活用される。			
医療技術名	α アンチトリプシン欠損症患者への補充療法	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 α 1アンチトリプシン欠損により、若年性肺気腫をきたす疾患であるが、補充により病勢進行抑制が期待される。			
医療技術名	非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療後免疫療法	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 既に、局所進行肺癌において確立している化学放射線療法後免疫療法を、体幹部定位放射線療法後に行う。			
医療技術名	医学的適応による未受精卵子の採取・凍結・保存	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍に罹患した生殖可能年齢にある女性患者さんに対して、外科的療法、化学療法、放射線療法などによって失われるであろう妊孕性を治療前に温存する。			
医療技術名	NK細胞異常を伴った不育症あるいは着床不全に対する免疫グロブリン療法及びイントラリピッド療法	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要 リスク因子不明に含まれるNK細胞異常を指摘された不育症並びに着床不全患者さんに対して、妊娠率や妊娠継続率の改善が期待され、生児獲得の可能性が高まる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
5	56	球脊髄性筋萎縮症		ベーチェット病	92
19	57	筋萎縮性側索硬化症		特発性拡張型心筋症	31
0	58	脊髄性筋萎縮症		肥大型心筋症	12
0	59	原発性側索硬化症		拘束型心筋症	0
7	60	進行性核上性麻痺		再生不良性貧血	14
125	61	パーキンソン病		自己免疫性溶血性貧血	0
5	62	大脳皮質基底核変性症		発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
0	63	ハンチントン病		特発性血小板減少性紫斑病	27
0	64	神経有棘赤血球症		血栓性血小板減少性紫斑病	0
2	65	シャルコー・マリー・トウス病		原発性免疫不全症候群	2
46	66	重症筋無力症		IgA 腎症	24
0	67	先天性筋無力症候群		多発性嚢胞腎	25
57	68	多発性硬化症/視神経脊髄炎		黄色靱帯骨化症	9
9	69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー		後縦靱帯骨化症	90
3	70	封入体筋炎		広範脊柱管狭窄症	5
0	71	クロウ・深瀬症候群		特発性大腿骨頭壊死症	67
10	72	多系統萎縮症		下垂体性ADH分泌異常症	10
40	73	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)		下垂体性TSH分泌亢進症	1
0	74	ライソゾーム病		下垂体性PRL分泌亢進症	9
0	75	副腎白質ジストロフィー		クッシング病	4
1	76	ミトコンドリア病		下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
13	77	もやもや病		下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	25
1	78	プリオン病		下垂体前葉機能低下症	93
0	79	亜急性硬化性全脳炎		家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
0	80	進行性多巣性白質脳症		甲状腺ホルモン不応症	0
0	81	HTLV-1関連脊髄症		先天性副腎皮質酵素欠損症	3
0	82	特発性基底核石灰化症		先天性副腎低形成症	0
11	83	全身性アミロイドーシス		アジソン病	0
0	84	ウルリッヒ病		サルコイドーシス	76
2	85	遠位型ミオパチー		特発性間質性肺炎	22
0	86	ベスレムミオパチー		肺動脈性肺高血圧症	5
0	87	自己食空胞性ミオパチー		肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
0	88	シュワルツ・ヤンペル症候群		慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9
14	89	神経線維腫症		リンパ脈管筋腫症	3
14	90	天疱瘡		網膜色素変性症	45
3	91	表皮水疱症		バッド・キアリ症候群	3
10	92	膿疱性乾癬(汎発型)		特発性門脈圧亢進症	1
0	93	スティーヴンス・ジョンソン症候群		原発性胆汁性肝硬変	25
0	94	中毒性表皮壊死症		原発性硬化性胆管炎	4
16	95	高安静脈炎		自己免疫性肝炎	11
1	96	巨細胞性動脈炎		クローン病	127
3	97	結節性多発動脈炎		潰瘍性大腸炎	228
24	98	顕微鏡的多発血管炎		好酸球性消化管疾患	0
5	99	多発血管炎性肉芽腫症		慢性特発性偽性腸閉塞症	0
6	100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症		巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
16	101	悪性関節リウマチ		腸管神経節細胞減少症	0
2	102	バージャー病		ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
4	103	原発性抗リン脂質抗体症候群		CFC症候群	0
220	104	全身性エリテマトーデス		コステロ症候群	0
59	105	皮膚筋炎/多発性筋炎		チャージ症候群	0
64	106	全身性強皮症		クリオピリン関連周期熱症候群	0
29	107	混合性結合組織病		全身型若年性特発性関節炎	5
14	108	シェーグレン症候群		TNF受容体関連周期性症候群	0
14	109	成人ステル病		非典型溶血性尿毒症症候群	0
3	110	再発性多発軟骨炎		ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
113	筋ジストロフィー	11	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	6
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスモンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	2	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	4	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	2	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	5
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	3	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	45	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	6
224	紫斑病性腎炎	5	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿管症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	3	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	1	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	1
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	2
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	1
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	3
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	9
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	2
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	43

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	4
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 入退院支援加算2
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 精神疾患診療体制加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 救命救急入院料4
・ 特定機能病院入院基本料	・ 特定集中治療室管理料1
・ 救急医療管理加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料1
・ 超急性期脳卒中加算	・ 新生児特定集中治療室管理料2
・ 診療録管理体制加算1	・ 小児入院医療管理料2
・ 医師事務作業補助体制加算1	・
・ 急性期看護補助体制加算	・
・ 看護職員夜間配置加算1	・
・ 看護補助加算2	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1, 感染防止対策地域連携加算	・
・ 抗菌薬適正使用支援加算	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 後発医薬品使用体制加算1	・
・ 病棟薬剤業務実施加算1	・
・ データ提出加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・遺伝学的検査
・糖尿病合併症管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・がん患者指導管理料ハ	・がんゲノムプロファイリング検査
・がん患者指導管理料ニ	・先天性代謝異常症検査
・外来緩和ケア管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・検体検査管理加算(IV)
・糖尿病透析予防指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・小児運動器疾患指導管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・腎代替療法指導管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・院内トリアージ実施料	・胎児心エコー法
・外来放射線照射診療料	・ヘッドアップティルト試験
・がん治療連携計画策定料	・人工臓器検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・皮下連続式グルコース測定
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・長期継続頭蓋内脳波検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・神経学的検査
・薬剤管理指導料	・補聴器適合検査
・医療機器安全管理料1	・黄斑局所網膜電図
・医療機器安全管理料2	・全視野精密網膜電図
・精神科退院時共同指導料1及び2	・小児食物アレルギー負荷検査
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料)	・内服・点滴誘発試験
・歯科治療時医療管理料	・センチネルリンパ節生検(片側)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・経気管支凍結生検法
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリッジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)	・精密触覚機能検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・画像診断管理加算1	・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
・画像診断管理加算2	・手術用顕微鏡加算
・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・口腔粘膜処置
・CT撮影及びMRI撮影	・CAD/CAM冠
・冠動脈CT撮影加算	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・外傷全身CT加算	・四肢・軀幹部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・心臓MRI撮影加算	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・乳房MRI撮影加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・頭部MRI撮影加算	・椎間板内酵素注入療法
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・外来化学療法加算1	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・無菌製剤処理料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁に対して実施する場合)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅱ)	・羊膜移植術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・網膜再建術
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・人工中耳植込術
・がん患者リハビリテーション料	・人工内耳植込術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・認知療法・認知行動療法1	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・硬膜外自家血注入	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	
・人工膵臓療法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・ 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの) ・ 補助人工心臓
・ 顎関節人工関節全置換術(歯科診療に係るものに限る。)	・ 経皮的下肢動脈形成術
・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・ バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ 内視鏡下筋層切開術	・ 腹腔鏡下肝切除術
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・ 生体部分肝移植術 ・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 ・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術	・ 腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・ 経カテーテル大動脈弁置換術	・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・ 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 経皮的中隔心筋焼灼術	・ 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・ 同種死体腎移植術
・ 両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・ 生体腎移植術
・ 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・ 膀胱水圧拡張術
・ 植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・ 腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・ 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) ・ 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・ 人工尿道括約筋植込・置換術 ・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) ・ 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・輸血管管理料 I	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・貯血式自己血輸血管管理体制加算	・
・自己生体組織接着剤作成術	・
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・
・同種クリオプレシピテート作製術	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・口腔粘膜血管腫凝固術	・
・レーザー機器加算	・
・麻酔管理料(I)	・
・麻酔管理料(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・病理診断管理加算(2)	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器(内科・外科)病理合同カンファレンス週1回 ・泌尿器・病理合同カンファレンス週1回 ・細胞診カンファレンス月1回 ・脳神経外科・病理合同カンファレンス月1～2回 ・婦人科・病理合同カンファレンス月1回 ・呼吸器・病理合同カンファレンス週1回 ・リンパ腫カンファレンス月1回 ・その他不規則の検討会月数回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 31 例 / 剖検率 11.5 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
前立腺癌の過剰診断と過剰治療を回避する糖鎖バイオマーカーの実用化	大山 力	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	5,100,000円	補委 日本学術振興会
ダウン症候群に合併する急性巨核芽球性白血病の多段階発症の分子機構	伊藤 悦朗	大学院医学研究科 小児科学講座	10,600,000円	補委 日本学術振興会
術後譫妄・認知機能低下および敗血症性譫妄の発症機序解明と予防法の開発	廣田 和美	大学院医学研究科 麻酔科学講座	3,500,000円	補委 日本学術振興会
膝蓋骨不安定症に対する電気生理学的、生体力学的側面から見た評価方法の確立	津田 英一	大学院医学研究科 リハビリテーション医学講座	600,000円	補委 日本学術振興会
ヒアルロン酸を標的とした癌微小環境の制御による新規降癌治療法の開発	袴田 健一	大学院医学研究科 消化器外科学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
ヘリコバクターピロリ感染および除菌が腸内細菌叢に与える影響を解明する大規模研究	珍田 大輔	大学院医学研究科 地域医療学講座	500,000円	補委 日本学術振興会
ビタミンAを介した腸管マクロファージ・オートファジー調節機序	平賀 寛人	大学院医学研究科 大館・北秋田地域医療推進学講座 (消化器内科学講座)	1,300,000円	補委 日本学術振興会
シクロスポリンによるFLIPを介した腸上皮細胞ネクロプトーシス抑制効果	櫻庭 裕丈	大学院医学研究科 消化器内科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
呼吸音の自動解析・共有システムの確立と在宅・遠隔医療への展開	田坂 定智	大学院医学研究科 呼吸器内科学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
ダイヤモンド・ブラックファン貧血の発症機構の解明と新規治療標的分子の同定	土岐 力	大学院医学研究科 小児科学講座	1,400,000円	補委 日本学術振興会
GATA1遺伝子変異による白血病発症の分子機構の解明	金崎 里香	大学院医学研究科 テニユア教員 (小児科学講座)	1,100,000円	補委 日本学術振興会
毛髪維持に必須なVII型コラーゲンの構造的特徴の解明	神 可代	大学院医学研究科 皮膚科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
糖代謝と腫瘍血流量を組み合わせた肺癌定位照射後の予後予測と早期再発診断法の確立	青木 昌彦	大学院医学研究科 放射線腫瘍学講座	800,000円	補委 日本学術振興会
脊柱靭帯骨化を起す間葉系幹細胞の異常の機序解明とそれに基づく治療薬の標的探索	古川 賢一	大学院医学研究科 整形外科科学講座	500,000円	補委 日本学術振興会
卵巣癌腹膜播種への遺伝子治療の応用を目指して	横山 良仁	大学院医学研究科 産科婦人科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
ポリコロナゾールの薬物動態に及ぼすC反応性蛋白および核内受容体遺伝子多型の影響	新岡 丈典	大学院医学研究科 薬理学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
発達性協調運動障害の視覚情報処理機能の解明	吉田 和貴	大学院医学研究科 神経精神医学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
うつ病関連遺伝子が脳内ネットワークに与える影響についての研究	掛田 伸吾	大学院医学研究科 放射線診断科	1,200,000円	補委 日本学術振興会
ダウン症のTAMにおいてGATA1変異タイプが好酸球増多症と肝障害に及ぼす影響	照井 君典	大学院医学研究科 小児科学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
皮膚発癌におけるヒトパピローマウイルスE6/E7の役割とCD55陽性細胞との関連	六戸 大樹	大学院医学研究科 皮膚科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
皮膚におけるポルフィリン代謝の分子機構	中野 創	大学院医学研究科 皮膚科学講座	1,300,000円	補委 日本学術振興会
降癌克服をめざした細胞間質制御による癌細胞不活化法の確立	石戸 圭之輔	大学院医学研究科 消化器外科学講座	1,300,000円	補委 日本学術振興会
ティッシュエンジニアリングを応用した人工胸膜の開発	木村 大輔	大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
術後アウトカム指向麻酔法の探求：内因性睡眠物質を応用した円滑な周術期管理への道標	櫛方 哲也	大学院医学研究科 麻酔科学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
重症くも膜下出血の治療法開発と臨床応用のための橋渡し研究	大熊 洋揮	大学院医学研究科 脳神経外科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
体内再生誘導メカニズムを応用した新鮮損傷膝前十字靭帯の修復法の開発	石橋 恭之	大学院医学研究科 整形外科科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
糖鎖分子標的リキッドバイオプシーによる前立腺癌悪性度評価マーカーの開発	米山 徹	大学院医学研究科 先進移植再生医学講座 (泌尿器科学講座)	1,100,000円	補委 日本学術振興会
自閉スペクトラム症超早期介入法の日本における実用可能なプロトタイプ作成及び効果	大里 絢子	大学院医学研究科 神経精神医学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
三次元超微形態学的解析による関節リウマチの炎症慢性化の解明	黒瀬 理恵	大学院医学研究科 整形外科科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
発達障害の併存・合併症問題の精神病理の解明と個別化した早期治療の探求	廣田 智也	大学院医学研究科 神経精神医学講座	1,700,000円	補委 日本学術振興会

内視鏡を用いた自閉スペクトラム症の腸内細菌叢を明らかにすることによる病態解明	久保 一利	大学院医学研究科 神経精神医学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
発達性協調運動障害の内部モデル障害仮説の検証と乳幼児期の予後因子の解明	斉藤 まなぶ	大学院医学研究科 神経精神医学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
冠縮性狭心症におけるカルモジュリンキナーゼの役割と新たな治療戦略の開発	富田 泰史	大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
間質抑制による癌軟化作用を介した腫瘍治療の開発	工藤 大輔	大学院医学研究科 消化器外科学講座	1,900,000円	補委	日本学術振興会
外科専門医手術手技トレーニングにおける注視視点解析の有効性に関する研究	皆川 正仁	大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座	1,500,000円	補委	日本学術振興会
うつ病病態発現神経回路の解明とケタミン抗うつ作用機序の検討	二階堂 義和	大学院医学研究科 麻酔科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
炎症性ケモカインCCL2阻害薬によるグリオーマ腫瘍幹細胞休止期駆逐療法の基礎研究	浅野 研一郎	大学院医学研究科 脳神経外科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
視細胞保護治療を目的とした新規カルパイン抑制ペプチド徐放システムの開発	中澤 満	大学院医学研究科 眼科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
抗体依存性細胞傷害活性を増強する免疫細胞療法の開発	工藤 耕	医学部附属病院 小児科	1,100,000円	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞の免疫調整作用による新規乾癬治療法の開発	松崎 康司	医学部附属病院 皮膚科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
皮膚センチネルリンパ節の核医学的検出における新たな判定法の確立	三浦 弘行	医学部附属病院 放射線診断科	800,000円	補委	日本学術振興会
肝細胞癌の低酸素応答特性に基づいたTACE/Metformin併用療法の有用性	佐藤 まり子	医学部附属病院 放射線治療科	1,400,000円	補委	日本学術振興会
多能性成体幹細胞 (Muse細胞) 移植による損傷脊髄の修復	熊谷 玄太郎	医学部附属病院 整形外科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
腫瘍血管内皮細胞を標的とした中性子補足療法の開発	畠山 真吾	医学部附属病院 泌尿器科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
トレハロース点眼の濾過胞維持機能に関する基礎的臨床的研究	目時 友美	医学部附属病院 眼科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
がん間質での特異的免疫応答に着目した新規口腔粘膜炎治療の開発	久保田 耕世	医学部附属病院 歯科口腔外科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
ゲノムインプリンティングからみた卵巣粘液性癌の組織発生の解明	加藤 哲子	医学部附属病院 病理部	900,000円	補委	日本学術振興会
巨核球造血におけるホメオドメイン転写因子IRX1の機能解析	佐藤 知彦	医学部附属病院 小児科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
リボソーム蛋白遺伝子異常に着目したDiamond-Blackfan貧血の病因解明	神尾 卓哉	医学部附属病院 小児科	800,000円	補委	日本学術振興会
230kDa類天疱瘡抗原1の接着因子としての機能解析と免疫原性獲得機序の究明	会津 隆幸	医学部附属病院 皮膚科	1,100,000円	補委	日本学術振興会
高浸潤性増殖を呈する大腸癌における微小環境の病態解明とその増殖制御	諸橋 一	医学部附属病院 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	1,400,000円	補委	日本学術振興会
ブドウ糖初期分布容量を指標とする体液評価法の確立と敗血症治療への応用	橋場 英二	医学部附属病院 集中治療部	900,000円	補委	日本学術振興会
ドパミン部分アゴニストによる低プロラクチン血症のリスク因子と臨床的意義	橋本 浩二郎	医学部附属病院 神経科精神科	1,400,000円	補委	日本学術振興会
小児特発性ネフローゼ症候群におけるSMPDL-3bの意義の解明	渡邊 祥二郎	医学部附属病院 小児科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
進行再発大腸癌に対する新規治療薬ヒアルロン酸合成阻害剤の作用機序の解明	坂本 義之	大学院医学研究科 大館・北秋田地域医療推進学講座 (消化器外科)	1,100,000円	補委	日本学術振興会
ストレスコントロールを指向した周術期管理法の探求～局所麻酔薬の有用性～	北山 眞任	医学部附属病院 手術部	1,200,000円	補委	日本学術振興会
癌切除を受ける患者の予後を改善するための全身麻酔薬の探求～理想的な鎮痛薬は？～	丹羽 英智	医学部附属病院 麻酔科	800,000円	補委	日本学術振興会
13C乳糖を用いた乳糖不耐症における乳糖消化吸収動態の解明と効果的な治療法の検討	柳町 幸	医学部附属病院 内分泌内科, 糖尿病代謝内科	2,200,000円	補委	日本学術振興会
母体血清中の胎児DNAを標的とする重症遺伝性皮膚疾患の画期的な出生前診断法	是川 あゆ美	大学院医学研究科 皮膚科学講座	1,700,000円	補委	日本学術振興会
骨盤内リンパ管トレースシステムを用いた下部直腸肛門管リンパ管マップの開発	佐藤 健太郎	大学院医学研究科 消化器外科学講座	200,000円	補委	日本学術振興会
大動脈弁異所性石灰化の原因細胞の同定とその機序解明及び石灰化抑制薬の開発	于 在強	大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
早期変形性膝関節症診断基準の確立と診断に有用なバイオマーカーの探索	佐々木 英嗣	大学院医学研究科 整形外科科学講座	400,000円	補委	日本学術振興会
糖鎖関連バイオマーカーによる去勢抵抗性獲得予測および治療効果予測法の開発	石橋 祐介	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会

GCN2糖転移酵素による前立腺癌悪性度のリキッドバイオプシー評価法の開発	三上 穰太郎	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
オステオポンチン糖鎖に着目した尿路結石診断・予防薬開発に関する基礎研究	野呂 大輔	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
画像評価法とリキッドバイオプシーの併用による腎癌治療効果判定バイオマーカーの開発	細越 正吾	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
エキソソーム表面のヒアルロンダーゼに着目した膀胱癌浸潤・転移機序の解明	得居 範子	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
膝前十字靭帯損傷予防を目指したコアマッスルトレーニング効果の科学的解明	木村 由佳	大学院医学研究科 整形外科科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
胆道癌浸潤病巣における線維性間質の病態と、抗線維化治療への展開	羽賀 敏博	大学院医学研究科 地域医療支援学講座 (旧地域総合診療医学推進学講座)(消化器内科学講座)	900,000円	補委	日本学術振興会
オレキシン神経系が敗血症関連脳症及び敗血症に伴う睡眠障害に与える影響	竹川 大貴	医学部附属病院 麻酔科	800,000円	補委	日本学術振興会
くも膜下出血後早期脳損傷におけるLOX-1の役割	松田 尚也	大学院医学研究科 脳神経外科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症モデルマウスにおける静脈血栓塞栓症発症メカニズムの解明	市川 奈菜	大学院医学研究科 地域救急医療医学講座	1,400,000円	補委	日本学術振興会
Liquid biopsy法による新規副腎マーカーの開発	藤田 尚紀	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
化学療法誘発性末梢神経障害に対するフローズングロブの有用性の評価	赤石 麻美	大学院医学研究科 産科婦人科学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
冠縮性狭心症における新たな機序解明：細胞内シグナル伝達物質βアレスチンの役割	花田 賢二	医学部附属病院 循環器内科, 腎臓内科	1,100,000円	補委	日本学術振興会
微細酸素気泡の血液溶解を利用した小型人工肺と圧電素子を用いた小型血流ポンプの開発	小渡 亮介	医学部附属病院 呼吸器外科, 心臓血管外科	500,000円	補委	日本学術振興会
エクソソームの膜に発現している糖鎖は転移臓器選択性に関与するか	日下 歩	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
子宮内膜症を合併した不妊症におけるNK細胞機能分担と機能発現の解明	山谷 文乃	医学部附属病院 産科婦人科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
心血管疾患リスクを有する妊娠女性の循環動態と代謝機構の変化の解明	飯野 香理	医学部附属病院 産科婦人科	2,200,000円	補委	日本学術振興会
超音波ガイド下腹部触診シミュレータの開発とその教育効果の混合研究法による検証	小林 只	医学部附属病院 総合診療部	1,600,000円	補委	日本学術振興会
e-Sportsによるうつ病治療増強療法の確立とその生物学的機序の解明	富田 哲	医学部附属病院 神経科精神科	900,000円	補委	日本学術振興会
脳構造画像を用いた自閉スペクトラム症における感覚処理異常の神経基盤の解明	松原 侑里	医学部附属病院 神経科精神科	1,100,000円	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症の早期療育の有効性に関するメカニズムの解明	坂本 由唯	医学部附属病院 神経科精神科	900,000円	補委	日本学術振興会
ヨード密度とグルコース代謝を指標とした食道癌に対する放射線感受性の予測	藤岡 一太郎	医学部附属病院 放射線治療科	500,000円	補委	日本学術振興会
ループ腎炎における自然免疫系を介するPAI-1発現の解明と治療への応用	相澤 知美	医学部附属病院 周産母子センター	1,200,000円	補委	日本学術振興会
腸内環境からNAFLD、NASH進展への解明：メタゲノム解析とメタボローム解析	飯野 勢	医学部附属病院 消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	500,000円	補委	日本学術振興会
副腎機能不全に伴う低Na血症の病態解明：CRFニューロンに共存するAVPの意義	山形 聡	医学部附属病院 内分泌内科, 糖尿病代謝内科	1,400,000円	補委	日本学術振興会
中枢、末梢組織におけるHPA系ネガティブフィードバック機構の分子学的機序の検討	綿貫 裕	医学部附属病院 内分泌内科, 糖尿病代謝内科	700,000円	補委	日本学術振興会
脾臓間質をターゲットとした新規脾臓治療戦略の開発	長瀬 勇人	医学部附属病院 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	1,300,000円	補委	日本学術振興会
希釈式自己血輸血採取血液の経時的凝固能の変化：トロンボエラストメトリーを用いて	斎藤 淳一	医学部附属病院 集中治療部	900,000円	補委	日本学術振興会
下部消化管手術後の敗血症マーカー、プレセプシンの推移の検討	中井 希紫子	医学部附属病院 麻酔科	1,300,000円	補委	日本学術振興会
生物学的製剤は脊柱靭帯骨化症の治療薬となり得るか？	浅利 享	医学部附属病院 整形外科	400,000円	補委	日本学術振興会
膝前十字靭帯再建術後に生じる神経筋コントロールの変化の科学的解明	佐々木 静	医学部附属病院 整形外科	500,000円	補委	日本学術振興会
有限要素法を用いた大腿骨頭壊死症の骨頭圧潰予測スコアリングシステムの開発	原田 義史	医学部附属病院 整形外科	500,000円	補委	日本学術振興会
変形性膝関節症に対するヒアルロン酸と多血小板血漿を併用した関節内注射治療	飯尾 浩平	医学部附属病院 整形外科	800,000円	補委	日本学術振興会

血清糖鎖解析とリキッドバイオプシーの併用による尿路上皮癌バイオマーカーの開発	鈴木 裕一朗	医学部附属病院 泌尿器科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
モデル動物による好酸性中耳炎の内耳病態解明	工藤 直美	医学部附属病院 耳鼻咽喉科	2,300,000円	補委	日本学術振興会
更なる低侵襲化の為に乳癌センチネルリンパ節転移CT判定法とリンパ解剖の解明	藤田 環	医学部附属病院 放射線診断科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
地域住民を対象とした聴覚関連遺伝子変異の疫学調査および早期対応の手法の確立	後藤 真一	大学院医学研究科 耳鼻咽喉科学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
前立腺がん鑑別および悪性度評価に有用な糖鎖性マーカーアレイの開発	小島 由太	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
膀胱癌の血管外脱出過程における癌由来細胞外小胞の役割解明	米山 美穂子	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
血清N-結合型糖鎖の網羅的質量解析による腎盂・尿管癌の糖鎖バイオマーカーの開発	今西 賢悟	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
前立腺癌の微小環境における高分子量ヒアルロン酸の腫瘍生物学的意义	佐藤 天童	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
カルパイン抑制ペプチドによる網膜変性遅延効果の光干渉断層計(OCT)による解析	高橋 静	大学院医学研究科 眼科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
ナノ〜マクロレベルにわたる新機軸ヒト胆道系3Dリンパ管システムマップの開発	鍵谷 卓司	大学院医学研究科 消化器外科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
Red Complexのアディポネクチンを介したインスリン抵抗性メカニズムの解明	田村 好弘	大学院医学研究科 歯科口腔外科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
線維芽細胞を起点とした骨代謝制御機構の解明と骨吸収性疾患治療への応用	伊藤 良平	大学院医学研究科 歯科口腔外科学講座	500,000円	補委	日本学術振興会
RPE65遺伝子変異網膜色素変性に対する9-シス-レチノイドによる視細胞保護効果	毛内 奈津姫	医学部附属病院 眼科	1,100,000円	補委	日本学術振興会
がん微小環境における癌関連線維芽細胞のmTORシグナル制御によるがん治療の新展開	古舘 健	医学部附属病院 歯科口腔外科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
分子標的ホウ素中性子捕捉療法の開発	大山 力	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	4,200,000円	補委	日本学術振興会
大規模調査による非アルコール性脂肪性肝疾患と腸内細菌叢の関連の解明	遠藤 哲	大学院医学研究科 むつ下北地域医療推進学講座	1,900,000円	補委	日本学術振興会
地域がん登録及び全国がん登録事業	松坂 方士	医学部附属病院 臨床試験管理センター	4,900,803円	補委	青森県
がん登録データの活用によるがん検診制度管理モデル事業	松坂 方士	医学部附属病院 臨床試験管理センター	4,328,173円	補委	青森県
後縦帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究	和田 簡一郎	医学部附属病院 整形外科	1,460,000円	補委	学校法人 慶応義塾 慶応義塾大学
吃音、トゥレット、場面緘黙の実態把握と支援のための調査研究	中村 和彦	大学院医学研究科 神経精神医学講座	3,846,000円	補委	厚生労働省
先天性骨髄不全症の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインの確立に関する研究	伊藤 悦朗	大学院医学研究科 小児科学講座	11,700,000円	補委	国立保健医療科学院
小児がん等がん調査事業	伊藤 悦朗	小児科学講座	3,139,167円	補委	青森県
平成31年度弘前市5歳児発達健診事業委託	斉藤 まなぶ	神経精神医学講座	3,000,000円	補委	弘前市
平成31年度弘前市3歳児発達健診事業委託	斉藤 まなぶ	神経精神医学講座	1,000,000円	補委	弘前市
Down症の急性巨核芽球性白血病発症を予測する革新的バイオマーカーの開発	伊藤 悦朗	小児科学講座	21,119,000円	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
麻酔科学関連分野に関する学術研究動向-日本発の麻酔科学研究は再興されたか？-	廣田 和美	麻酔科学講座	1,560,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
学童・思春期のこころの客観的指標と連携システムの開発	中村 和彦	神経精神医学講座	11,050,000円	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
GATA1遺伝子解析及びGATA1変異を利用した微小残存病変の測定	照井 君典	小児科学講座	2,600,000円	補委	国立大学法人滋賀医科大学
上部尿路癌における予後予測マーカーの開発	大山 力	泌尿器科学講座	3,250,000円	補委	宮城県立病院機構 宮城県立がんセンター
TAM-18におけるGATA1遺伝子解析	伊藤 悦朗	小児科学講座	2,000,700円	補委	国立大学法人名古屋大学
視線計測装置及び視線計測装置用診断プログラム(GF01)による自閉スペクトラム症(ASD)の診断能に関する多施設共同試験	斉藤 まなぶ	神経精神医学講座	12,133,012円	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
産婦人科領域における不定愁訴の自律神経計測器を用いた、客観的評価と精油を用いたアロマセラピーによる不定愁訴改善効果についての検証	二神 真行	産科婦人科学講座	10,000,000円	補委	株式会社Blue ink

α2,3結合型シアル酸付加PSA (S2,3-PSA) の臨床有用性研究	大山 力	泌尿器科学講座	3,174,600円	補 委	富士フィルム和光純薬株式会社
視線計測装置及び視線計測装置用診断プログラム(GF01)による自閉スペクトラム症(ASD)の診断能に関する多施設共同試験	斉藤 まなぶ	神経精神医学講座	3,659,988円	補 委	国立大学法人浜松医科大学
新規動物実験用加速器BNCTシステムの実用性評価	青木 昌彦	放射線腫瘍学講座	608,400円	補 委	青森県
致死性不整脈のリスク因子と植込みデバイス適応の検討	佐々木 真吾	不整脈先進治療学講座	390,000円	補 委	国立大学法人大阪大学
オミクス解析技術と人工知能技術による難治性造血器疾患の病因解明と診断向上に貢献する解析基盤の開発	伊藤 悦朗	小児科学講座	800,000円	補 委	国立大学法人東京大学
変形性膝関節症に対する経皮吸収型消炎剤(ロコアテープ)単独治療とNSAIDs経口剤+既存の貼付剤併用治療との比較試験	石橋 恭之	整形外科科学講座	809,972円	補 委	大正富山医薬品株式会社、帯人ファーマ株式会社
切除不能な進行・再発非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブの多施設共同前向き観察研究	田坂 定智	呼吸器内科学講座	811,000円	補 委	メビックス株式会社
進行性/再発性の子宮がん患者を対象にパクリタセキカルボプラチンにアテゾリズマブを併用する二重盲検プラセボ対照ランダム化第III相比較試験/AtTEnd(消費税10%)	横山 良仁	産科婦人科学講座	770,000円	補 委	特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍研究機構
切除不能な進行・再発非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブの多施設共同前向き観察研究:(J-TAIL)におけるバイオマーカー探索研究	田坂 定智	呼吸器内科学講座	110,000円	補 委	メビックス株式会社
ステージIV尿路上皮癌患者におけるPD-L1発現率に関する実態調査(YODO study)	橋本 安弘	泌尿器科学講座	396,000円	補 委	株式会社リニカル
自閉スペクトラム症患者におけるピリドキサミンの有効性および安全性を評価する探索的医師主導第II相試験	斉藤 まなぶ	神経精神医学講座	457,305円	補 委	国立大学法人東北大学
2型糖尿病合併不整脈治療デバイス植込み患者におけるエンバグリフロジン介入後の重症不整脈数変化を評価するためのプラセボ対照二重盲検比較試験	富田 泰史	循環器腎臓内科学講座	550,000円	補 委	国立大学法人新潟大学、マイクロン株式会社
進展型小細胞肺癌患者に対する初回治療カルボプラチン/エトポシド/アテゾリズマブ併用療法の実地診療における有効性、安全性を検討する多施設前向き観察研究	田中 寿志	呼吸器内科学講座	165,000円	補 委	公立大学法人和歌山県立医科大学
透析アミロイド症を合併した透析患者におけるリクセルの抗炎症作用についての検討-多施設共同・単群・前向き介入試験	畠山 真吾	泌尿器科学講座	1,085,370円	補 委	株式会社カネカ

計141件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Watanabe R, Sakuraba H, Hiraga H, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Diagnostic approach for patients with unidentified fever according to the classical criteria of fever of unknown origin in the field of autoimmune disorders.	Immunol Med. 2019 Dec;42(4):176-184. doi: 10.1080/25785826.2019.1696631. Epub 2019 Dec 1.	Original Article
2	Tanaka N, Sakuraba H, Hiraga H, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Long-term maintenance of the mucosal healing induced by azacitidine therapy in a patient with intestinal Behcet's-like disease accompanied with myelodysplastic syndrome involving trisomy 8.	Immunol Med. 2019 Sep;42(3):135-141. doi: 10.1080/25785826.2019.1687251. Epub 2019 Nov 9.	Case report
3	Hiraga H, Sakuraba H, Tanaka N, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	A case of celiac disease with type I enteropathy-associated T-cell lymphoma in a Japanese male patient.	Immunol Med. 2019 Sep;42(3):142-147. doi: 10.1080/25785826.2019.1673031. Epub 2019 Oct 11.	Case report
4	Iino C, Endo T, Mikami K, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Significant decrease in Faecalibacterium among gut microbiota in nonalcoholic fatty liver disease: a large BMI- and sex-matched population study.	Hepatol Int. 2019 Nov;13(6):748-756. doi: 10.1007/s12072-019-09987-8. Epub 2019 Sep 12.	Original Article
5	Ota S, Sakuraba H, Hiraga H, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Successful adalimumab treatment and usefulness of capsule endoscopy for gut inflammation concomitant with ankylosing spondylitis.	Mod Rheumatol. 2019 Jul;29(4):708-713. doi: 10.1080/14397595.2017.1295785. Epub 2017 Mar 8.	Case report
6	Iino C, Shimoyama T, Iino K, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Daidzein Intake Is Associated with Equol Producing Status through an Increase in the Intestinal Bacteria Responsible for Equol Production	Nutrients. 2019 Feb 19;11(2):433. doi: 10.3390/nu11020433.	Original Article
7	Akemoto Y, Sakuraba H, Tanaka M, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Gastric Focal Neutrophil Infiltration and Wide Duodenal Gastric Foveolar Metaplasia Are Histologic Discriminative Markers for Crohn's Disease and Behcet's Disease.	Digestion. 2019;100(3):210-219. doi: 10.1159/000494922. Epub 2018 Dec 12.	Original Article
8	Daisuke C, Tadashi S, Kaori S, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	Lifestyle Factors Rather Than Helicobacter pylori Infection or Estradiol Level are Associated With Osteopenia in Japanese Men.	Am J Mens Health. 13(2):1557988319848219, 2019	Original Article
9	Narita N, Okumura K, Kinjo T, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Trends in Prevalence of Non-Valvular Atrial Fibrillation and Anticoagulation Therapy in a Japanese Region - Analysis Using the National Health Insurance Database.	Circ J. 2020 Apr 24;84(5):706-713. doi: 10.1253/circj.CJ-18-0989. Epub 2020 Mar 25.	Original Article
10	Ishida Y, Payne JE, Field ME, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Electromagnetic interference from left ventricular assist devices in patients with subcutaneous implantable cardioverter-defibrillators.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 May;31(5):1195-1201. doi: 10.1111/jce.14431. Epub 2020 Mar 9.	Original Article
11	Itoh T, Tomita H.	循環器内科, 腎臓内科	A response to the letter regarding the article, "Isolated prepotential preceding a presumed idiopathic premature ventricular contraction originating from the aortomitral continuity".	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 May;31(5):1237. doi: 10.1111/jce.14410. Epub 2020 Mar 3.	Letter
12	Itoh T, Kimura M, Toyama Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Breakout site shift to the right bundle branch during an idiopathic premature ventricular contraction originating from the left bundle branch.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2020 Jan;31(1):229-230. doi: 10.1111/jce.14291. Epub 2019 Dec 3.	Case report
13	Itoh T, Kimura M, Tomita H.	循環器内科, 腎臓内科	Isolated prepotential preceding a presumed idiopathic premature ventricular contraction originating from the aortomitral continuity.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Dec;30(12):2988-2989. doi: 10.1111/jce.14262. Epub 2019 Nov 11.	Case report
14	Itoh T, Kimura M, Tomita H.	循環器内科, 腎臓内科	Modified hockey stick maneuver utilizing a steerable cryoballoon catheter for left inferior pulmonary vein isolation.	J Arrhythm. 2019 Sep 11;35(5):739-741. doi: 10.1002/joa3.12237. eCollection 2019 Oct.	Case report
15	Itoh T, Kimura M, Nishizaki K, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Multiple simultaneous mid-diastolic potentials recorded on a grid mapping catheter during a scar-related reentrant ventricular tachycardia: Are all potentials within a critical isthmus?	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Dec;30(12):2984-2985. doi: 10.1111/jce.14230. Epub 2019 Oct 14.	Case report
16	Itoh T, Kimura M, Ishida Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	In situ needle deflection technique using a steerable introducer for site-selective radiofrequency transseptal puncture.	J Arrhythm. 2019 May 7;35(3):565-567. doi: 10.1002/joa3.12191. eCollection 2019 Jun.	Case report
17	Yokoyama H, Higuma T, Endo T, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Prognostic impact of body mass index and culprit lesion calcification in patients with acute myocardial infarction.	Heart Vessels. 2019 Dec;34(12):1909-1916. doi: 10.1007/s00380-019-01439-5. Epub 2019 May 29.	Original Article
18	Itoh T, Kimura M, Ishida Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Nonendocardial Isthmus Involving a Protected Part Within the Endocardial Scar in an Ischemic Ventricular Tachycardia.	JACC Clin Electrophysiol. 2019 May;5(5):637-638. doi: 10.1016/j.jacep.2019.01.010.	Case report
19	Narita M, Yamada M, Tsushima M, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Novel Electrocardiographic Criteria for the Diagnosis of Left Ventricular Hypertrophy in the Japanese General Population.	Int Heart J. 2019 May 30;60(3):679-687. doi: 10.1536/ihj.18-511. Epub 2019 Apr 25.	Original Article
20	Yokoyama H, Tobaru T, Muto Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Long-term outcomes in Japanese nonagenarians undergoing transcatheter aortic valve implantation: A multi-center analysis.	Clin Cardiol. 2019 Jun;42(6):605-611. doi: 10.1002/clc.23183. Epub 2019 Apr 23.	Original Article

小計20件

21	Itoh T, Kimura M, Ishida Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Interpolated Purkinje potentials recorded at a successful ablation site of a fascicular premature ventricular contraction during sinus rhythm.	Europace. 2019 May 1;21(5):715. doi: 10.1093/europace/euy296.	Case report
22	Itoh T, Kimura M, Tomita H.	循環器内科, 腎臓内科	Demonstration of an adjacent conduction gaps-derived left atrial and pulmonary vein flutter by high-density mapping.	J Interv Card Electrophysiol. 2019 Sep;55(3):361. doi: 10.1007/s10840-018-0485-1. Epub 2018 Nov 17.	Case report
23	Tsushima M, Metoki N, Hagii J, et al.	循環器内科, 腎臓内科	D-dimer and C-reactive Protein as Potential Biomarkers for Diagnosis of Trousseau's Syndrome in Patients with Cerebral Embolism.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2020 Feb;29(2):104534. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2019.104534. Epub 2019 Dec 4.	Original Article
24	Tsushima M, Liu J, Hirao W, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Emerging evidence for crosstalk between Nrf2 and mitochondria in physiological homeostasis and in heart disease.	Arch Pharm Res. 2020 Mar;43(3):286-296. doi: 10.1007/s12272-019-01188-z. Epub 2019 Nov 11.	Review
25	Kato T, Yokota T, Kitayama K, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Incidence and clinical impact of thrombus after stent implantation in patients with ST-segment elevation myocardial infarction: an optical coherence tomography study.	Hirosaki Med J. 2020;70:139-147.	Original Article
26	Kudo N, Hanada K, Kawamura Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Mutational analysis of β -arrestin in Japanese patients with coronary spastic angina.	Hirosaki Med J. 2020;70:148-155.	Original Article
27	Toyama Y, Yonekura M, Arakawa Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Establishment of cardiac action potential recording using a membrane potential indicator in the mouse sinoatrial node.	Hirosaki Med J. 2020;70:163-171.	Original Article
28	Murabayashi M, Daimon M, Murakami H, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Association between higher urinary normetanephrine and insulin resistance in a Japanese population.	PLoS One. 2020 Feb 13;15(2):e0228787. doi: 10.1371/journal.pone.0228787. eCollection 2020.	Original Article
29	Takayasu S, Makita K, Kageyama K, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Presence of aberrant adrenocorticotrophic hormone precursors in two cases of McCune-Albright syndrome.	Endocr J. 2020 Mar 28;67(3):353-359. doi: 10.1507/endocrj.EJ19-0449. Epub 2019 Dec 4.	Original Article
30	Kageyama K, Asari Y, Sugimoto Y, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Ubiquitin-specific protease 8 inhibitor suppresses adrenocorticotrophic hormone production and corticotroph tumor cell proliferation.	Endocr J. 2020 Feb 28;67(2):177-184. doi: 10.1507/endocrj.EJ19-0239. Epub 2019 Oct 30.	Original Article
31	Yamagata S, Kageyama K, Takayasu S, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Progression of Hypopituitarism and Hypothyroidism after Treatment with Pembrolizumab in a Patient with Adrenal Metastasis from Non-small-cell Lung Cancer.	Intern Med. 2019 Dec 15;58(24):3557-3562. doi: 10.2169/internalmedicine.3008-19. Epub 2019 Aug 28.	Case report
32	Makita K, Takayasu S, Usutani M, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	O-linked β -N-acetylglucosamine transferase is involved in pro-opiomelanocortin gene expression in mouse pituitary corticotroph AtT-20 cells.	Neurosci Lett. 2019 Oct 15;711:134407. doi: 10.1016/j.neulet.2019.134407. Epub 2019 Jul 29.	Original Article
33	Asari Y, Kageyama K, Sugiyama A, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Lapatinib decreases the ACTH production and proliferation of corticotroph tumor cells.	Endocr J. 2019 Jun 28;66(6):515-522. doi: 10.1507/endocrj.EJ18-0491. Epub 2019 Mar 15.	Original Article
34	Tomita T, Kudo S, Sugawara N, et al.	神経科精神科	Sex Differences In Psychoeducation For Patients With Depression: A Comparison Of Frequency And Efficacy Of Psychoeducation.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2019 Nov 6;15:3069-3078. doi: 10.2147/NDT.S207544. eCollection 2019.	Original Article
35	Hashimoto S, Aizawa T, Watanabe S, et al.	小児科	Osteomyelitis-related glomerulonephritis with myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody positivity.	Pediatr Int. 2020 Feb;62(2):236-238. doi: 10.1111/ped.14080. Epub 2020 Feb 17.	Case report
36	Aizawa T, Morisada N, Nozu K, et al.	小児科	Expanding the phenotype of Bardet-Biedl syndrome: Newly diagnosed sibling cases.	Pediatr Int. 2020 Jan;62(1):101-103. doi: 10.1111/ped.14066. Epub 2020 Jan 15.	Case report
37	Terui K, Toki T, Taga T, et al.	小児科	Highly sensitive detection of GATA1 mutations in patients with myeloid leukemia associated with Down syndrome by combining Sanger and targeted next generation sequencing.	Genes Chromosomes Cancer. 2020 Mar;59(3):160-167. doi: 10.1002/gcc.22816. Epub 2019 Oct 21.	Original Article
38	Miura F, Shimada J, Kitagawa Y, et al.	小児科	MYH7 mutation identified by next-generation sequencing in three infant siblings with bi-ventricular noncompaction presenting with restrictive hemodynamics: A report of three siblings with a severe phenotype and poor prognosis.	J Cardiol Cases. 2019 Feb 11;19(4):140-143. doi: 10.1016/j.jccase.2018.12.017. eCollection 2019 Apr.	Case report
39	Tanaka T, Oki E, Mori T, et al.	小児科	Complete clinical resolution of a Japanese family with renal pseudohypoadosteronism type 1 due to a novel NR3C2 mutation.	Nephrology (Carlton). 2019 Apr;24(4):489-490. doi: 10.1111/nep.13391.	Letter
40	Kubo K, Kudo K, Toki T, et al.	小児科	Comprehensive genetic analyses of relapsed B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia in children.	Hirosaki Med J. 2019;70:12-23.	Original Article
41	Ootani K, Shimada J, Kitagawa Y, et al.	小児科	Cardiac Fibroma in a Newborn with Down Syndrome.	Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery 2019;3(2):97-102	Case report
42	Fukuda W, Fukuda I, Murakami T, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Reimplantation of a Stenotic Inferior Mesenteric Artery for Chronic Visceral Artery Occlusion after Failed Bypass to the Superior Mesenteric Artery.	Ann Vasc Dis. 2019 Dec 25;12(4):559-561. doi: 10.3400/avd.cr.19-00053.	Case report

43	Chiyoya M, Fukuda I, Sasaki S, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Direct ablation and excision of myocardial scar in post-myocarditis ventricular aneurysm.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2020 Feb 1;30(2):316-318. doi: 10.1093/icvts/ivz258.	Case report
44	Kowatari R, Sasaki H, Goto S, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	A case of aortocolonic fistula caused by sigmoid diverticulitis.	J Vasc Surg Cases Innov Tech. 2019 Apr 28;5(2):78-81. doi: 10.1016/j.jvscit.2018.12.005. eCollection 2019 Jun.	Case report
45	Yu Z, Seya K, Chiyoya M, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Warfarin calcifies human aortic valve interstitial cells at high-phosphate conditions via pregnane X receptor.	J Bone Miner Metab. 2019 Nov;37(6):944-956. doi: 10.1007/s00774-019-01001-3. Epub 2019 Apr 8. Erratum in: J Bone Miner Metab. 2020 May;38(3):418-419.	Original Article
46	Kowatari R, Fukuda I, Kawamura T, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Clampless aortic punch system for making a large-diameter access route without side-biting clamp: a preliminary study.	J Artif Organs. 2019 Sep;22(3):260-263. doi: 10.1007/s10047-018-01088-x. Epub 2019 Jan 5.	Original Article
47	Itaya H, Aoki C, Hatanaka R, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Resection of left atrial appendage aneurysm and full maze procedure as curative management for stroke recurrence.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Mar;68(3):295-297. doi: 10.1007/s11748-018-1048-1. Epub 2018 Dec 18.	Case report
48	Kowatari R, Suzuki Y, Daitoku K, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Cryptococcal infective endocarditis in a child with acute lymphocytic leukaemia.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2019 Apr 1;28(4):642-644. doi: 10.1093/icvts/ivy291.	Case report
49	Umetsu S, Mizukami H, Saito T, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Diabetes, an independent poor prognostic factor of non-B non-C hepatocellular carcinoma, correlates with dihydropyrimidinase-like 3 promoter methylation.	Sci Rep. 2020 Jan 24;10(1):1156. doi: 10.1038/s41598-020-57883-1.	Original Article
50	Wakasa Y, Kimura N, Yamada T, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Delay in hepatocyte proliferation and prostaglandin D2 synthase expression for cholestasis due to endotoxin during partial hepatectomy in rats.	Mol Med Rep. 2019 Nov;20(5):4367-4375. doi: 10.3892/mmr.2019.10681. Epub 2019 Sep 13.	Original Article
51	Sato K, Morohashi H, Taushima F, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Dual energy CT is useful for the prediction of mesenteric and lateral pelvic lymph node metastasis in rectal cancer.	Mol Clin Oncol. 2019 Jun;10(6):625-630. doi: 10.3892/mco.2019.1834. Epub 2019 Mar 28.	Original Article
52	Sato K, Miura T, Morohashi S, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Comparable regional therapeutic effects between neoadjuvant chemotherapy and neoadjuvant chemoradiotherapy for locally advanced lower rectal cancer in terms of histopathological analysis.	Mol Clin Oncol. 2019 Jun;10(6):619-624. doi: 10.3892/mco.2019.1835. Epub 2019 Mar 28.	Original Article
53	Akaishi T, Ishido K, Kimura N, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	A Case of Non-Resectable Pancreatic Cancer With Multiple Hepatic Metastases Treated With FOLFIRINOX Therapy and Conversion Surgery	Gan To Kagaku Ryoho. 2019 Dec;46(13):2551-2553. Japanese	Case report
54	Ishibashi K, Sasaki E, Sasaki S, et al.	整形外科	Medial stabilizing technique preserves anatomical joint line and increases range of motion compared with the gap-balancing technique in navigated total knee arthroplasty.	Knee. 2020 Mar;27(2):558-564. doi: 10.1016/j.knee.2019.12.002. Epub 2020 Feb 6.	Original Article
55	Yamauchi S, Sasaki S, Kimura Y, et al.	整形外科	Tibial eminence fracture with midsubstance anterior cruciate ligament tear in a 10-year-old boy: A case report.	Int J Surg Case Rep. 2020;67:13-17. doi: 10.1016/j.ijscr.2019.12.036. Epub 2020 Jan 9.	Case report
56	Ogawa T, Ohshika S, Yanagisawa M, et al.	整形外科	Teriparatide may accelerate the growth of a pre-existing malignant tumor in an elderly patient with osteoporosis: A case report.	Mol Clin Oncol. 2020 Feb;12(2):144-147. doi: 10.3892/mco.2019.1966. Epub 2019 Dec 16.	Case report
57	Ishibashi Y, Adachi N, Koga H, et al.	整形外科	Japanese Orthopaedic Association (JOA) clinical practice guidelines on the management of anterior cruciate ligament injury - Secondary publication.	J Orthop Sci. 2020 Jan;25(1):6-45. doi: 10.1016/j.jjos.2019.10.009. Epub 2019 Dec 13. Review.	Others
58	Kumagai G, Wada K, Kudo H, et al.	整形外科	Accuracy of Bony Gutter Placement in Cervical Laminoplasty Assisted by 3-D Print Modeling, and Associations with Posterior Spinal Cord Shift and Radiculopathy.	Spine Surg Relat Res. 2019 May 31;3(4):277-284. doi: 10.22603/ssrr.2019-0014. eCollection 2019.	Original Article
59	Nitobe Y, Nagaoki T, Kumagai G, et al.	整形外科	Neurotrophic Factor Secretion and Neural Differentiation Potential of Multi-lineage-differentiating Stress-enduring (Muse) Cells Derived from Mouse Adipose Tissue.	Cell Transplant. 2019 Sep-Oct;28(9-10):1132-1139. doi: 10.1177/0963689719863809. Epub 2019 Jul 15.	Original Article
60	Sasaki E, Ota S, Chiba D, et al.	整形外科	Early knee osteoarthritis prevalence is highest among middle-aged adult females with obesity based on new set of diagnostic criteria from a large sample cohort study in the Japanese general population.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2020 Mar;28(3):984-994. doi: 10.1007/s00167-019-05614-z. Epub 2019 Jul 10.	Original Article
61	Ohshika S, Yanagisawa M, Tsushima F, et al.	整形外科	Diagnosis and conservative treatment of a rare case of femoral intraosseous arteriovenous malformation in a patient with polyostotic fibrous dysplasia: A case report.	Mol Clin Oncol. 2019 Jun;10(6):587-591. doi: 10.3892/mco.2019.1845. Epub 2019 Apr 16.	Case report
62	Ota S, Chiba D, Sasaki E, et al.	整形外科	Symptomatic bone marrow lesions induced by reduced bone mineral density in middle-aged women: a cross-sectional Japanese population study.	Arthritis Res Ther. 2019 May 6;21(1):113. doi: 10.1186/s13075-019-1900-4.	Original Article
63	Wada K, Kumagai G, Kudo H, et al.	整形外科	Prevalence of cervical canal stenosis in farmers: Epidemiological study based on radiographic parameter of spinal cord injury patients.	J Orthop Sci. 2020 Mar;25(2):206-212. doi: 10.1016/j.jjos.2019.03.021. Epub 2019 Apr 16.	Original Article
64	Takeda O, Kumagai G, Wada K, et al.	整形外科	Predicting radiological vertebral fractures with a combined physical function and body composition scoring system.	J Bone Miner Metab. 2019 Sep;37(5):935-942. doi: 10.1007/s00774-019-00988-x. Epub 2019 Mar 27.	Original Article

65	Nishikawa K, Kimura Y, Chiba D, et al.	整形外科	Metacarpal Stress Fracture Is Not an Uncommon Condition in Adolescent Racket Athletes	Case Rep Orthop. 2020 Feb 8;2020:5840925. doi: 10.1155/2020/5840925.	Case report
66	Sakamoto Y, Tsukada H, Sasaki S, et al.	整形外科	Effects of the Tibial Tunnel Position on Knee Joint Stability and Meniscal Contact Pressure After Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction	J Orthop Sci. 2020 Jan 11;S0949-2658(19)30376-8. doi: 10.1016/j.jos.2019.12.006.	Original Article
67	Tsushima T, Tsukada H, Sasaki S, et al.	整形外科	Biomechanical Analysis of Medial Patellofemoral Ligament Reconstruction: FiberTape® With Knotless Anchors Versus a Semitendinosus Tendon Autograft With Soft Anchors	J Orthop Sci. 2019 Jul;24(4):663-667. doi: 10.1016/j.jos.2018.11.018.	Original Article
68	Yokoyama H, Oda A, Makino M, et al.	リハビリテーション科	Effects of different oral instructions on kinematic and kinetic parameters during drop vertical jump.	J Phys Ther Sci. 2019 Aug;31(8):670-674. doi: 10.1589/jpts.31.670. Epub 2019 Aug 9.	Original Article
69	Sasaki S, Tsuda E, Yamamoto Y, et al.	リハビリテーション科	Core-Muscle Training and Neuromuscular Control of the Lower Limb and Trunk.	J Athl Train. 2019 Sep;54(9):959-969. doi: 10.4085/1062-6050-113-17. Epub 2019 Aug 6.	Original Article
70	Miura K, Tsuda E, Kogawa M, et al.	リハビリテーション科	The effects of ball impact position on shoulder muscle activation during spiking in male volleyball players.	JSES International 2020 Feb 22;4(2):302-309.	Original Article
71	Korekawa A, Nakajima K, Nakano H, et al.	皮膚科	Pedunculated aneurysmal fibrous histiocytoma with increased (18) F-fluorodeoxyglucose uptake on positron emission tomography/computed tomography.	J Dermatol. 2020 Mar;47(3):e100-e102. doi: 10.1111/1346-8138.15237. Epub 2020 Jan 17.	Letter
72	Korekawa A, Nakajima K, Nakano H, et al.	皮膚科	Paraneoplastic syndrome associated with chronic myelogenous leukemia mimicking adult-onset Still's disease.	J Dermatol. 2020 Feb;47(2):e67-e69. doi: 10.1111/1346-8138.15169. Epub 2019 Dec 2.	Letter
73	Minakawa S, Matsuzaki Y, Hashimoto T, et al.	皮膚科	Dipeptidyl peptidase-4 inhibitor-associated anti-laminin- γ 1 (p200) pemphigoid in a patient with psoriasis vulgaris.	J Dermatol. 2020 Jan;47(1):e25-e26. doi: 10.1111/1346-8138.15126. Epub 2019 Oct 23.	Letter
74	Nakajima K, Korekawa A, Nakano H, et al.	皮膚科	Subcutaneous dermoid cysts on the eyebrow and neck.	Pediatr Dermatol. 2019 Nov;36(6):999-1001. doi: 10.1111/pde.13976. Epub 2019 Aug 14.	Case report
75	Minakawa S, Matsuzaki Y, Yamaguchi S, et al.	皮膚科	Pediculus humanus capitis: Pyrethroid resistance and utility of scanning electron microscopy.	J Dermatol. 2019 Nov;46(11):e418-e419. doi: 10.1111/1346-8138.15009. Epub 2019 Jul 19.	Case report
76	Korekawa A, Nakajima K, Makita E, et al.	皮膚科	Two cases of cutaneous gnathostomiasis after eating raw Salangichthys microdon (icefish, shirauo).	J Dermatol. 2019 Sep;46(9):791-793. doi: 10.1111/1346-8138.15002. Epub 2019 Jun 27.	Case report
77	Hamano I, Hatakeyama S, Yamamoto H, et al.	泌尿器科	Survey on attitudes toward brain-dead and living donor transplantation in medical students: a cross-sectional study in Japan.	Clin Exp Nephrol. 2020 Jul;24(7):638-645. doi: 10.1007/s10157-020-01878-9. Epub 2020 Mar 31.	Original Article
78	Okita K, Hatakeyama S, Imai A, et al.	泌尿器科	STone Episode Prediction: Development and validation of the prediction nomogram for urolithiasis.	Int J Urol. 2020 Apr;27(4):344-349. doi: 10.1111/iju.14203. Epub 2020 Mar 8.	Original Article
79	Hatakeyama S, Ohyama C.	泌尿器科	Editorial Comment to Incidence and risk factors of postoperative delirium in elderly patients undergoing urological surgery: A multi-institutional prospective study.	Int J Urol. 2020 Mar;27(3):225-226. doi: 10.1111/iju.14177. Epub 2020 Jan 12.	Original Article
80	Okita K, Hatakeyama S, Narita S, et al.	泌尿器科	The Effect of Treatment Sequence on Overall Survival for Men With Metastatic Castration-resistant Prostate Cancer: A Multicenter Retrospective Study.	Clin Genitourin Cancer. 2020 Apr;18(2):e103-e111. doi: 10.1016/j.clgc.2019.09.006. Epub 2019 Sep 27.	Original Article
81	Soma O, Hatakeyama S, Yoneyama T, et al.	泌尿器科	Serum N-glycan profiling can predict biopsy-proven graft rejection after living kidney transplantation.	Clin Exp Nephrol. 2020 Feb;24(2):174-184. doi: 10.1007/s10157-019-01820-8. Epub 2019 Nov 25.	Original Article
82	Matsumoto T, Hatakeyama S, Yoneyama T, et al.	泌尿器科	Serum N-glycan profiling is a potential biomarker for castration-resistant prostate cancer.	Sci Rep. 2019 Nov 14;9(1):16761. doi: 10.1038/s41598-019-53384-y.	Original Article
83	Soma O, Hatakeyama S, Imai A, et al.	泌尿器科	Relationship between frailty and lower urinary tract symptoms among community-dwelling adults.	Low Urin Tract Symptoms. 2020 May;12(2):128-136. doi: 10.1111/luts.12292. Epub 2019 Oct 23.	Original Article
84	Okamoto T, Hatakeyama S, Narita S, et al.	泌尿器科	Validation and development of the CHARTED criteria in patients with hormone-naïve metastatic prostate cancer: A multi-institutional retrospective study in Japan.	Int J Urol. 2020 Jan;27(1):90-91. doi: 10.1111/iju.14136. Epub 2019 Oct 15.	Original Article
85	Kodama H, Hatakeyama S, Narita S, et al.	泌尿器科	Clinical Characterization of Low Prostate-specific Antigen on Prognosis in Patients With Metastatic Castration-naïve Prostate Cancer.	Clin Genitourin Cancer. 2019 Dec;17(6):e1091-e1098. doi: 10.1016/j.clgc.2019.05.029. Epub 2019 Sep 10.	Original Article
86	Okamoto T, Hatakeyama S, Imai A, et al.	泌尿器科	The Relationship Between Gait Function and Erectile Dysfunction: Results from a Community-Based Cross-Sectional Study in Japan.	J Sex Med. 2019 Dec;16(12):1922-1929. doi: 10.1016/j.jsxm.2019.08.018. Epub 2019 Sep 12.	Original Article

87	Hatakeyama S, Ohyama C.	泌尿器科	Editorial Comment to Impact of post-void residual urine volume on intravesical recurrence after nephroureterectomy for upper urinary tract urothelial carcinoma.	Int J Urol. 2019 Dec;26(12):1112-1113. doi: 10.1111/iju.14113. Epub 2019 Sep 14.	Original Article
88	Soma O, Hatakeyama S, Okamoto T, et al.	泌尿器科	Multicenter prospective study validating the efficacy of a quantitative assessment tool for frailty in patients with urological cancers.	Med Oncol. 2019 Sep 13;36(10):88. doi: 10.1007/s12032-019-1313-x.	Original Article
89	Konishi S, Hatakeyama S, Numakura K, et al.	泌尿器科	Validation of the IMDC Prognostic Model in Patients With Metastatic Renal-Cell Carcinoma Treated With First-Line Axitinib: A Multicenter Retrospective Study.	Clin Genitourin Cancer. 2019 Oct;17(5):e1080-e1089. doi: 10.1016/j.clgc.2019.07.006. Epub 2019 Jul 20.	Original Article
90	Konishi S, Hatakeyama S, Yoneyama T, et al.	泌尿器科	Bilateral scrotal mass mimicking testicular cancer: An unusual presentation of sarcoidosis.	Int J Urol. 2019 Nov;26(11):1079-1081. doi: 10.1111/iju.14089. Epub 2019 Aug 4.	Original Article
91	Konishi S, Hatakeyama S, Tanaka T, et al.	泌尿器科	C-reactive protein/albumin ratio is a predictive factor for prognosis in patients with metastatic renal cell carcinoma.	Int J Urol. 2019 Oct;26(10):992-998. doi: 10.1111/iju.14078. Epub 2019 Jul 24.	Original Article
92	Ohyama C, Kojima T, Kondo T, et al.	泌尿器科	Nivolumab in patients with unresectable locally advanced or metastatic urothelial carcinoma: CheckMate 275 2-year global and Japanese patient population analyses.	Int J Clin Oncol. 2019 Sep;24(9):1089-1098. doi: 10.1007/s10147-019-01450-w. Epub 2019 Jun 19.	Original Article
93	Hatakeyama S, Imai A, Ohyama C.	泌尿器科	Editorial Comment.	J Urol. 2019 Aug;202(2):359-360. doi: 10.1097/01.JU.0000559824.07845.4c. Epub 2019 Jul 8.	Review
94	Okita K, Hatakeyama S, Tanaka T, et al.	泌尿器科	Impact of Disagreement Between Two Risk Group Models on Prognosis in Patients With Metastatic Renal-Cell Carcinoma.	Clin Genitourin Cancer. 2019 Jun;17(3):e440-e446. doi: 10.1016/j.clgc.2019.01.006. Epub 2019 Jan 17.	Original Article
95	Hamano I, Hatakeyama S, Narita S, et al.	泌尿器科	Impact of nadir PSA level and time to nadir during initial androgen deprivation therapy on prognosis in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer.	World J Urol. 2019 Nov;37(11):2365-2373. doi: 10.1007/s00345-019-02664-3. Epub 2019 Feb 7.	Original Article
96	Matsumoto T, Hatakeyama S, Narita T, et al.	泌尿器科	Evaluating the effects of switching from dutasteride to tadalafil in benign prostatic hyperplasia patients with lower urinary tract symptoms: A randomized, open-label, multicenter study.	Int J Urol. 2019 Apr;26(4):522-523. doi: 10.1111/iju.13908. Epub 2019 Jan 18.	Original Article
97	Okamoto T, Hatakeyama S, Narita S, et al.	泌尿器科	Impact of nutritional status on the prognosis of patients with metastatic hormone-naïve prostate cancer: a multicenter retrospective cohort study in Japan.	World J Urol. 2019 Sep;37(9):1827-1835. doi: 10.1007/s00345-018-2590-2. Epub 2018 Dec 4.	Original Article
98	Matsumoto T, Hatakeyama S, Imai A, et al.	泌尿器科	Relationship between oxidative stress and lower urinary tract symptoms: results from a community health survey in Japan.	BJU Int. 2019 May;123(5):877-884. doi: 10.1111/bju.14535. Epub 2018 Oct 15.	Original Article
99	Yoneyama T, Tobisawa Y, Kaneko T, et al.	泌尿器科	Clinical significance of the LacdiNAc-glycosylated prostate-specific antigen assay for prostate cancer detection	Cancer Sci. 2019 Aug;110(8):2573-2589. doi: 10.1111/cas.14082. Epub 2019 Jun 27.	Original Article
100	Hamano I, Hatakeyama S, Yamamoto H, et al.	泌尿器科	Impact of Distance Between Donor and Recipient Hospitals on Cadaveric Kidney Transplantation Outcomes.	Clin Exp Nephrol. 2019 Jun;23(6):807-813. doi: 10.1007/s10157-019-01710-z. Epub 2019 Feb 27.	Original Article
101	Konishi S, Hatakeyama S, Numakura K, et al.	泌尿器科	C-reactive protein/albumin Ratio Is a Predictive Factor for Prognosis in Patients With Metastatic Renal Cell Carcinoma.	Int J Urol. 2019 Oct;26(10):992-998. doi: 10.1111/iju.14078. Epub 2019 Jul 24.	Original Article
102	Kodama H, Koie T, Oikawa M, et al.	泌尿器科	Castration-resistant Prostate Cancer Without Metastasis at Presentation May Achieve Cancer-Specific Survival in Patients Who Underwent Prior Radical Prostatectomy	Int Urol Nephrol. 2020 Apr;52(4):671-679. doi: 10.1007/s11255-019-02339-3. Epub 2020 Jan 3. Int Urol Nephrol. 2020.	Original Article
103	Anan G, Yoneyama T, Noro D, et al.	泌尿器科	The Impact of Glycosylation of Osteopontin on Urinary Stone Formation	Int J Mol Sci. 2019 Dec 21;21(1):93. doi: 10.3390/ijms21010093.	Original Article
104	Suzuki Y, Suzuki K, Tanabu R, et al.	眼科	Intraoperative choroidal detachment occurring in a case of perforating ocular injury.	Am J Ophthalmol Case Rep. 2020 Feb 29;18:100643. doi: 10.1016/j.ajoc.2020.100643. eCollection 2020 Jun.	Case report
105	Gonome T, Xie Y, Arai S, et al.	眼科	Excess Glutamate May Cause Dilation of Retinal Blood Vessels in Glutamate/Aspartate Transporter-Deficient Mice.	Biomed Res Int. 2019 Nov 11;2019:6512195. doi: 10.1155/2019/6512195. eCollection 2019.	Original Article
106	Nakazawa M, Hara A, Ishiguro S, et al.	眼科	Optical Coherence Tomography of Animal Models of Retinitis Pigmentosa: From Animal Studies to Clinical Applications.	Biomed Res Int. 2019 Oct 30;2019:8276140. doi: 10.1155/2019/8276140. eCollection 2019. Review.	Review
107	Mikuniya Yuki, Goto Shinichi, Sasaki Akira, et al.	耳鼻咽喉科	Simple Smell Identification Test Using Three Odorants to Detect Cognitive Decline: Investigation in Community-dwelling Volunteers	Hirosaki Medical Journal 69(1-4):172-178	Original Article
108	Kudo Naomi, Abe Takahisa, Midorikawa Shin, et al.	耳鼻咽喉科	Remarkable effects of salvage chemotherapy with cetuximab and paclitaxel after cancer immunotherapy in two cases of recurrent/metastatic head and neck cancer	Hirosaki Medical Journal 70(1):72-76	Original Article

109	Oikiri H, Asano Y, Matsusaki M, et al.	産科婦人科	Inhibitory effect of carbonyl reductase 1 against peritoneal progression of ovarian cancer: evaluation by ex vivo 3D-human peritoneal model.	Mol Biol Rep. 2019 Oct;46(5):4685-4697. doi: 10.1007/s11033-019-04788-6. Epub 2019 Apr 25.	Original Article
110	Tanaka S, Kakizaki I, Tanaka K, et al.	産科婦人科	Development of new therapeutic agents for preterm birth by glycosaminoglycan chain remodeling of urinary trypsin inhibitor	Hypertension Research in Pregnancy 2019 7 27-35	Original Article
111	Oikiri H, Futagami M, Watanabe J, et al.	産科婦人科	Adenocarcinoma of the cervix:its prognosis and difficult pathological diagnosis	European Journal of Gynaecological Oncology 2019 5 728-733	Original Article
112	Takekawa D, Kubota M, Saito J, et al.	産科婦人科	Postoperative Dexmedetomidine-Induced Polyuria in a Patient With Schizophrenia: A Case Report.	A A Pract. 2020 Mar 1;14(5):131-133. doi: 10.1213/XAA.0000000000001162.	Case report
113	Hirota K, Kushikata T, Takekawa D, et al.	麻酔科	Is neurotransmitter release involved in the mechanism of general anesthesia?	J Anesth. 2020 Feb;34(1):153-155. doi: 10.1007/s00540-019-02718-1. Epub 2019 Dec 2.	Original Article
114	Noguchi S, Takekawa D, Saito J, et al.	麻酔科	Serum Tryptase Cannot Differentiate Vancomycin-Induced Anaphylaxis From Red Man Syndrome.	J Clin Immunol. 2019 Nov;39(8):855-856. doi: 10.1007/s10875-019-00707-3. Epub 2019 Oct 28.	Case report
115	Saito J, Masui K, Noguchi S, et al.	麻酔科	The efficacy of acute normovolemic hemodilution for preventing perioperative allogeneic blood transfusion in gynecological cancer patients.	J Clin Anesth. 2020 Mar;60:42-43. doi: 10.1016/j.jclinane.2019.08.025. Epub 2019 Aug 20.	Original Article
116	Hirota K.	麻酔科	Preoperative management and postoperative delirium : The possibility of neurorehabilitation using virtual reality.	J Anesth. 2020 Feb;34(1):1-4. doi: 10.1007/s00540-019-02660-2. Epub 2019 Jul 4.	Review
117	Kushikata T.	麻酔科	Sleep science in anesthesiology.	J Anesth. 2019 Jun;33(3):351-353. doi: 10.1007/s00540-019-02640-6. Epub 2019 Apr 6.	Review
118	Saito J, Takekawa D, Kawaguchi J, et al.	麻酔科	Preoperative cerebral and renal oxygen saturation and clinical outcomes in pediatric patients with congenital heart disease.	J Clin Monit Comput. 2019 Dec;33(6):1015-1022. doi: 10.1007/s10877-019-00260-9. Epub 2019 Jan 21.	Original Article
119	Noguchi S, Saito J, Nakai K, et al.	麻酔科	Factors affecting phantom limb pain in patients undergoing amputation: retrospective study.	J Anesth. 2019 Apr;33(2):216-220. doi: 10.1007/s00540-018-2599-0. Epub 2019 Jan 2.	Original Article
120	Saito J, Tokita T, Takashima R, et al.	麻酔科	Usefulness of Continuous Renal Replacement Therapy During an Intra-Aortic Balloon Occlusion in Patients With Ruptured Abdominal Aortic Aneurysms.	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2019 Aug;33(8):2237-2240. doi: 10.1053/j.jvca.2018.10.010. Epub 2018 Oct 13.	Case report
121	Saito J, Nakai K, Kawaguchi J, et al.	麻酔科	Patent ductus arteriosus closure and somatic regional oxyhemoglobin saturation.	J Clin Monit Comput. 2019 Jun;33(3):403-405. doi: 10.1007/s10877-018-0184-6. Epub 2018 Aug 3.	Original Article
122	Saito J, Masters J, Hirota K, et al.	麻酔科	Anesthesia and brain tumor surgery: technical considerations based on current research evidence	Curr Opin Anaesthesiol. 2019 Oct;32(5):553-562. doi: 10.1097/ACO.0000000000000749.	Review
123	Shimamura N, Naraoka M, Matsuda N, et al.	脳神経外科	Use of Preprocedural, Multiple Antiplatelet Medications for Coil Embolization of Ruptured Cerebral Aneurysm in the Acute Stage Improved Clinical Outcome and Reduced Thromboembolic Complications without Hemorrhagic Complications.	World Neurosurg. 2020 Jan;133:e751-e756. doi: 10.1016/j.wneu.2019.09.149. Epub 2019 Oct 8.	Original Article
124	Naraoka M, Fumoto T, Li Y, et al.	脳神経外科	The Role of Intracranial Pressure and Subarachnoid Blood Clots in Early Brain Injury After Experimental Subarachnoid Hemorrhage in Rats.	World Neurosurg. 2019 Sep;129:e63-e72. doi: 10.1016/j.wneu.2019.05.009. Epub 2019 May 15.	Original Article
125	Naraoka M, Shimamura N, Matsuda N, et al.	脳神経外科	Stent Folding Deformation of PRECISE and PROTEGE during Carotid Artery Stenting: Two Case Reports.	Journal of Neuroendovascular Therapy 2019; 13: 468-473	Case report
126	Naraoka M, Li Y, Katagai T, et al.	脳神経外科	Effects of apple polyphenols on oxidative stress and cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage in a rabbit double hemorrhage model.	Brain Hemorrhages. 2020 March; 1(1): 54-58	Original Article
127	Maita H, Kobayashi T, Akimoto T, et al.	総合診療部	Factors associated with seasonal influenza self-diagnosis: a prospective observational study in Japan.	NPJ Prim Care Respir Med. 2020 Mar 23;30(1):9. doi: 10.1038/s41533-020-0165-3.	Original Article
128	Maita H, Kobayashi T, Akimoto T, et al.	総合診療部	Vestibular migraine without headache treated with lomerizine: A 35-year-old woman undiagnosed for 10 years	Journal of General and Family Medicine. 2020 Mar 11.	Case report
129	Nomura O, Ihara T, Morikawa Y, et al.	総合診療部	Metered-dose inhaler ipratropium bromide for children with acute asthma exacerbation: A prospective, non-randomized, observational study.	Pediatr Int. 2020 Mar;62(3):319-323. doi: 10.1111/ped.14146. Epub 2020 Mar 4.	Original Article
130	Kawarabayashi T, Nakamura T, Miyashita K, et al.	脳神経内科	Novel ELISAs to measure total and phosphorylated tau in cerebrospinal fluid.	Neurosci Lett. 2020 Mar 23;722:134826. doi: 10.1016/j.neulet.2020.134826. Epub 2020 Feb 8.	Original Article

131	Nakamura T, Kawarabayashi T, Seino Y, et al.	脳神経内科	Perineuritis Successfully Treated with Early Aggressive Immunotherapy.	Intern Med. 2019 Oct 1;58(10):2875-2878. doi: 10.2169/internalmedicine.2638-19. Epub 2019 Jun 27.	Case report
132	Kon T, Funamizu Y, Suzuki C, et al.	脳神経内科	A Long Interval from a Spinal Cord Lesion to a Subsequent Brain Lesion in Primary Central Nervous System Vasculitis.	Intern Med. 2019 May 15;58(10):1485-1489. doi: 10.2169/internalmedicine.1667-18. Epub 2018 Nov 19.	Case report
133	Kon T, Tanji K, Mori F, et al.	脳神経内科	Immunoreactivity of myelin-associated oligodendrocytic basic protein in Lewy bodies	Neuropathology. 2019 Aug;39(4):279-285. doi: 10.1111/neup.12564. Epub 2019 Jun 10.	Original Article
134	Kon T, Tomiyama M, Wakabayashi K.	脳神経内科	Neuropathology of Lewy body disease: Clinicopathological crosstalk between typical and atypical cases	Neuropathology. 2020 Feb;40(1):30-39. doi: 10.1111/neup.12597. Epub 2019 Sep 9.	Review
135	Kon T, Mori F, Oyama Y, et al.	脳神経内科	An Autopsy Case of Early-Stage Amyotrophic Lateral Sclerosis With TDP-43 Immunoreactive Neuronal, but Not Glial, Inclusions	Neuropathology. 2019 Jun;39(3):224-230. doi: 10.1111/neup.12554. Epub 2019 Apr 24.	Case report
136	Kon T, Mori F, Arai A, et al.	脳神経内科	Atypical Globular Glial Tauopathy With a Combination of Types I and II Pathology	Neuropathology. 2019 Apr;39(2):127-134. doi: 10.1111/neup.12536. Epub 2019 Feb 5.	Case report
137	Kato N, Sato Y, Kamataki A, et al.	病理診断科	PIK3CA hotspot mutations and cyclooxygenase-2 expression in ovarian clear cell carcinomas: a close association with stromal features.	Hum Pathol. 2019 Apr;86:32-37. doi: 10.1016/j.humpath.2018.11.013. Epub 2018 Nov 26.	Original Article
138	Ogawa K, Kurose A, Kamataki A, et al.	病理診断科	Giant cell glioblastoma is a distinctive subtype of glioma characterized by vulnerability to DNA damage	Brain Tumor Pathol. 2020 Jan;37(1):5-13. doi: 10.1007/s10014-019-00355-w. Epub 2019 Oct 26.	Original Article
139	Tanaka H, Taima K, Itoga M, et al.	呼吸器内科	Real-world study of afatinib in first-line or re-challenge settings for patients with EGFR mutant non-small cell lung cancer.	Med Oncol. 2019 May 14;36(6):57. doi: 10.1007/s12032-019-1278-9.	Original Article
140	Sakamoto H, Tanaka H, Shiratori T, et al.	呼吸器内科	The efficacy of immune checkpoint inhibitors in advanced non-small cell lung cancer harboring driver mutations.	Mol Clin Oncol. 2019 Jun;10(6):610-614. doi: 10.3892/mco.2019.1838. Epub 2019 Apr 3.	Original Article
141	Ito R, Kubota K, Yaguchi S, et al.	歯科口腔外科	Falls Due to Loss of Consciousness are Associated With Maxillofacial Fracture Severity.	J Oral Maxillofac Surg. 2020 Mar;78(3):423-429. doi: 10.1016/j.joms.2019.10.023. Epub 2019 Nov 2.	Original Article
142	Satake A, Kobayashi W, Tamura Y, et al.	歯科口腔外科	Effects of oral environment on frailty: particular relevance of tongue pressure.	Clin Interv Aging. 2019 Sep 12;14:1643-1648. doi: 10.2147/CIA.S212980. eCollection 2019.	Original Article

計142件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の構成, 倫理審査申請から審査結果までの流れなど。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 98 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規程の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準, 委員会構成など。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 ・ 臨床研究法の対象範囲について ・ 特定臨床研究を実施するために必要な手続き, それに係る利益相反について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

弘前大学医学部附属病院の専門医養成研修プログラムは、将来その分野の先端を担う人間性豊かな良医の育成と科学的な思考能力の涵養、最先端の医療技術の習得を目標としている。そのために、大学病院ならではの症例等の豊富さ、経験豊かな先輩医師、診療科を超えた総合的診療体制、大学院在籍中でも研修可能など多くのメリットを活用して、若き医師の学位、各領域認定医・専門医の資格取得などキャリアアップを支援する体制を整えている。従来から、以下の各学会の公認する専門医養成施設となっている。

日本内科学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本整形外科科学会、日本産科婦人科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本病理学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本消化器病学会、日本循環器学会、日本呼吸器学会、日本血液学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本肝臓学会、日本アレルギー学会、日本老年医学会、日本神経学会、日本消化器外科学会、呼吸器外科専門医合同委員会、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構、日本小児外科学会、日本心身医学会、日本リウマチ学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会、日本周産期・新生児医学会、日本核医学会、日本集中治療医学会、日本輸血・細胞治療学会、日本透析医学会、日本臨床腫瘍学会、日本ペインクリニック学会、日本脳卒中学会、日本放射線腫瘍学会、日本肝胆膵外科学会、日本乳癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本高血圧学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本手外科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本がん治療認定医機構・日本がん治療認定医機構（歯科口腔外科）、日本熱傷学会、日本脳神経血管内治療学会、日本臨床細胞学会、日本緩和医療学会、日本頭頸部外科学会、日本インターベンショナルラジオロジー学会、日本認知症学会、日本小児循環器学会、日本生殖医学会、日本胆道学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本小児血液・がん学会、日本心臓血管麻酔学会、日本不整脈心電学会、日本感染症学会、日本脈管学会、日本カプセル内視鏡学会、日本消化管学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本内分泌外科学会、日本リハビリテーション医学会、日本女性医学学会、日本食道学会、日本脊椎脊髄病学会、日本外傷学会、日本呼吸療法医学会、日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医制度委員会、日本口腔外科学会、日本顎関節学会、日本小児口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔科学会

また、平成 30 年 4 月から新専門医制度による専門研修を開始しており、当院の専門研修プログラムは、以下 19 基本領域全てを整備している。

内科、精神科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳

鼻咽喉科、放射線科、産婦人科、麻酔科、脳神経外科、形成外科、救急科、臨床検査、病理、総合診療

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	324.50 人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
櫻庭 裕丈	消化器内科、血液内科、膠原病内科	准教授	21年	
富田 泰史	循環器内科、腎臓内科	教授	22年	
田坂 定智	呼吸器内科、感染症科	教授	29年	
大門 眞	内分泌内科、糖尿病代謝内科	教授	38年	
富山 誠彦	脳神経内科	教授	34年	
佐藤 温	腫瘍内科	教授	32年	
中村 和彦	神経科精神科	教授	30年	
照井 君典	小児科	准教授	28年	
皆川 正仁	呼吸器外科、心臓血管外科	准教授	24年	
袴田 健一	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	教授	35年	
袴田 健一	小児外科	教授	35年	
石橋 恭之	整形外科	教授	33年	
澤村 大輔	皮膚科	教授	38年	
大山 力	泌尿器科	教授	36年	
中澤 満	眼科	教授	41年	
松原 篤	耳鼻咽喉科	教授	33年	
青木 昌彦	放射線治療科	教授	31年	
掛田 伸吾	放射線診断科	教授	24年	
横山 良仁	産科婦人科	教授	32年	
廣田 和美	麻酔科	教授	34年	
大熊 洋揮	脳神経外科	教授	37年	
漆館 聡志	形成外科	教授	25年	
花田 裕之	救急科	教授	34年	
津田 英一	リハビリテーション科	教授	30年	
萱場 広之	検査部	教授	38年	
黒瀬 顕	病理診断科	教授	33年	
加藤 博之	総合診療部	教授	36年	
小林 恒	歯科口腔外科	教授	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 大山 力
管理担当者氏名	事務部長 村市 悟

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病歴部 医療情報部 薬剤部 放射線部	概ね電子データで管理。処方せん、持参フィルム等一部の記録は、原本を中央カルテ室で保管。 紙診療記録については、診療記録管理規程により、病院外への持ち出しを禁止している。 医療情報パソコン及びローカル保存データは、情報管理システム運用管理規程の定めにより、システム管理者の許可を得て、病院外への持ち出しができることとなっている。	
		各科診療日誌			
		処方せん			
		手術記録			
		看護記録			
		検査所見記録			
		エックス線写真			
		紹介状			
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	ファイル形式(紙媒体)	
		高度の医療の提供の実績	経営企画課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績			
		高度の医療の研修の実績	総務課		
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	閲覧実績			ファイル形式(紙媒体)
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部		
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室		
		医療に係る安全管理のための委員会開催状況			
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター	ファイル形式(紙媒体)
		院内感染対策のための委員会の開催状況		
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況		
	第二項	医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
	第一号から第三号までに掲げる事項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況		
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 放射線部 検査部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況		
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課	ファイル形式(紙媒体)
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総合患者支援センター	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	医療安全推進室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進室	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 大山 力	
閲覧担当者氏名	事務部長 村市 悟	
閲覧の求めに応じる場所	病院 小会議室	
閲覧の手続の概要		
国立大学法人弘前大学情報公開取扱規程に基づき、閲覧要求に応じる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療安全管理に関する基本的考え方 ② 医療安全管理のための組織体制 ③ 院内報告体制 ④ 安全な医療を提供するための職員研修 ⑤ 安全確保を目的とした改善のための要点 ⑥ 医療事故発生時の対応 ⑦ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 ⑧ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ⑨ その他医療安全推進の要点 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故予防・防止に関する情報収集及び対策の検討 ② 医療事故防止マニュアルの作成 ③ 医療事故予防・防止の教育、研修の企画、立案及び実施 ④ 医療事故が発生した場合における速やかな原因究明のための調査・報告及び分析 ⑤ 医療事故の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び院内に勤務する者への周知 ⑥ 医療事故の改善のための方策の実施状況の調査、及び必要に応じた当該方策の見直し ⑦ 医療紛争の予防・防止及びその対策 ⑧ 医療法第6条の10の規定に定められている医療事故（当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であって、当該管理者が当該死亡又は死産を予期しなかったものとして厚生労働省令で定めるもの）が疑われる事例の検証 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 10 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療安全ハンドブック説明会 ② PICCカテーテル挿入講習会 ③ 検査・手術前に中止すべき薬剤 ④ BLS指導者講習会・部署別講習会 ⑤ 輸血業務上の注意と輸血事故対応 ⑥ 静脈血栓塞栓症予防・治療マニュアルの作成と工夫 ⑦ TeamSTEPS ⑧ インスリンを安全に理使用するための基礎知識 ⑨ 医療機器安全管理研修会 ⑩ 医薬品安全管理研修会 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故発生時、安全管理委員会への報告 ② 医療事故の事例収集・分析により、院内での問題点を把握し、改善策の企画立案及び評価の上、情報を共有 ③ 重大な医療事故発生時の管理者への報告 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療関連感染対策に関する基本的な考え方 ② 感染管理の組織と役割 ③ 職員に対する医療関連感染対策に関わる研修 ④ サーベイランス ⑤ 院内感染発生時の報告体制・アウトブレイク時の対応 ⑥ 医療関連感染対策のための指針閲覧に関すること ⑦ その他医療関連感染対策の推進に関する基本的な考え方 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療関連感染防止対策の検討 ② 医療関連感染防止マニュアルの作成 ③ 医療関連感染防止の教育、研修の実施 ④ 院内感染発生時の周知体制 ⑤ 院内感染発生時の原因分析、改善策立案・実施、職員への周知 ⑥ 委員会で立案された改善策の実施状況の調査・見直し 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>医療関連感染対策のための基本的考え方及び具体的方策並びに医療関連感染対策に対する意識向上を目的とした内容を実施 以下、令和元年度院内感染対策研修会実施状況〈全職員対象〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療安全ハンドブック説明会 職業感染防止対策「針刺し・切創、皮膚・粘膜汚染」 ② 青森県抗菌化学療法セミナー 「感染症診療および抗菌薬適正使用マニュアルの解説1・2」 ③ 感染対策研修会 「標準予防策」 ④ 感染対策研修会 「感染経路別予防策」 ⑤ 感染対策研修会 「細菌・真菌性カテーテル関連血流感染症について」， 「感染性医療廃棄物」 ⑥ 青森県抗菌化学療法セミナー「抗菌薬適正使用の実践」 <p>また、上記研修会のDVD上映会を実施。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (①・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 院内感染の発生状況を把握するため、院内での感染症の発生動向の情報を共有。 ② 重大な院内感染発生時、地域の専門家等に相談が行われる体制を確保。 ③ 「医療関連感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備。 	

(注) 前年度の実績を記入すること

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全研修会(開催日：令和元年11月27日) 「インシデントから学ぶインスリンを安全に使用するための基礎知識」 ○医薬品安全管理研修会(開催日：令和2年2月21日) 「医薬品業務手順書の改訂と副作用報告」 「医療用麻薬の管理について」 「持参薬関連インシデントについて」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (○有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 医薬品採用・購入 ② 医薬品の管理全般 ③ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関すること ④ 患者に対する与薬や服薬指導に関すること ⑤ 医薬品情報の収集・管理・提供 ⑥ 他施設との連携 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) <ol style="list-style-type: none"> ① 未承認薬 <ul style="list-style-type: none"> ・ 未承認新規医薬品医療機器等評価部門に提出される「未承認新規医薬品医療機器等を用いた医療実施申請・承認・報告書」より情報を収集 ② 適応外使用薬 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟担当薬剤師による使用状況のモニタリング、および使用者(主治医)から提出される「適応外使用薬剤報告書」より情報を収集 ・ 未承認新規医薬品医療機器等評価部門に提出される「未承認新規医薬品医療機器等を用いた医療実施申請・承認・報告書」より情報を収集 ・ 薬剤部カンファレンス(週1回開催)において、病棟担当薬剤師より報告される適応外使用情報を収集 ③ 禁忌薬 <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤部カンファレンス(週1回開催)において、副薬剤部長から月1回報告される疑義照会(処方せん監査システムで「併用禁忌」が表示された場合)により情報を収集 ・ 未承認新規医薬品医療機器等評価部門に提出される「未承認新規医薬品医療機器等を用いた医療実施申請・承認・報告書」より情報を収集 ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主回収対象のマイトマイシン静注用(緑内障あるいは再発翼状片の手術時に使用) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 薬剤部内ミーティングにおいて、各部門担当者より、処方せん疑義照会内容、ヒヤリハット事例、禁忌・適応外使用状況、インシデント事例、薬学的介入事例などの報告があり、全体に周知が図られている。 ② 月1回、病棟・外来常備薬の定数・使用期限チェックを実施している(向精神薬・毒薬も含む)。 ③ 調剤支援システム「PORIMS」を活用し、PTP ヒートのバーコードを読み込ませることにより薬剤の取り間違い防止対策を実施している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 43 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 医療機器の有効性・安全性 ② 医療機器の使用法 ③ 医療機器の保守点検 ④ 医療機器不具合発生時等の対応 ⑤ 医療機器使用に関して特に法令上遵守すべき事項 ⑥ 医療機器の新規導入時研修 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (①・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 検査部門：各検査機器マニュアルに添付されている、デーリー・ウィークリー及びマンスリーの保守点検表のチェック 放射線部門：①毎日の始業点検と終業点検、②定期保守点検(放射線治療機器、MRI装置、CT装置、血管撮影装置)、③消耗部品の耐久時間・過去の故障実績を鑑みたスポット点検、④故障時の修理・部品交換に合わせた点検 臨床工学部部門：年間点検計画に基づき、定期点検又始業点検、動作中点検を行い、安全点検システムMARISで一括管理をしている。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 添付文書等の管理 ② 医療機器に係る安全性情報等の収集 ③ 病院管理者への報告 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が医療安全管理委員会の委員長となっている。委員会では、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者による報告が行われている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【収集方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品・医療機器等安全情報 (PMDA よりメール) ・医療安全情報 (日本医療機能評価機構よりメール) ・注意喚起文書 (日病薬 HP) ・医薬品安全情報 (製薬メーカー, 医薬品販売業者) 等・緊急安全情報発出時には, 薬剤システム (湯山製作所) を用いて使用患者を特定 <p>【周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急安全情報は即時に全診療部門, 全病棟, 使用医師に印刷物を配布 ・薬剤部医薬品情報室から定期的に発行している Drug Information に掲載 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 把握 <ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品医療機器を用いた医療実施申請書の確認により把握 ・各病棟担当者が当該医師に提出を依頼する「適応外使用薬剤報告書 (禁忌薬剤も含む)」により把握 ② リスクの検討 <ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品医療機器等評価部門での検討 ・未承認新規医薬品医療機器等評価委員会への審査依頼 ・医学科倫理委員会への審査依頼 (必要時) ・薬剤部ミーティングで検討 ③ 妥当性等の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品医療機器を用いた医療審査結果通知書の結果通知で確認 ・薬剤部ミーティングで確認 ④ 処方した医師等に対し処方変更等の提案 <ul style="list-style-type: none"> ・調剤・製剤担当者による疑義照会 ・各病棟担当者からの主治医へ伝達 ⑤ 医薬品安全管理責任者への報告 <ul style="list-style-type: none"> ・副薬剤部長および薬剤部医薬品情報担当者 (DI 主任) が報告 <p>・担当者の指名の有無 (有) ・無</p> <p>・担当者の所属・職種:</p> <p>(所属: 薬剤部 , 職種 薬剤師 (医薬品情報主任))</p> <p>(所属: 薬剤部 , 職種 副薬剤部長)</p> <p>(所属: , 職種) (所属: , 職種)</p> <p>(所属: , 職種) (所属: , 職種)</p> <p>(所属: , 職種) (所属: , 職種)</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>インフォームド・コンセント実施責任者は、インフォームド・コンセントの構成の遵守状況を定期的に確認し、必要な指導を行うとともに、共有すべき事例を周知又は研修で取り上げるなど情報の共有を行う。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>院内規程に基づきカルテ記載状況等の点検を行い、その結果を各診療科へフィードバックするとともに院内会議にて講評する。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（3）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名</p> <p>うち看護師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>※所属職員は、有資格者であり、医療安全に関する必要な知識の修得のための研修等を受講しており、医療安全管理委員会の構成員となっている。</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医療事故の防止及び安全管理推進に係る診療科、中央診療施設等並びに病院内各部署への指導、監督 ② 診療科等が提出する患者に係る死亡報告書に基づく、病院長への報告 ③ アクシデント、インシデント及び死亡事例についての調査、情報収集、報告の集計及び分析 ④ インフォームド・コンセントの適切な実施 ⑤ 事故、その他の医療安全推進室において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録、その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施、その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく院内に勤務する者への必要な指導 ⑥ 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認 ⑦ その他リスクマネジメントに関すること。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（7件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ① 高難度新規医療技術実施申請の内容確認及び評価委員会実施。
 - ② 評価委員会の審議結果を申請診療科長等に通知し、病院長へ報告すること。
 - ③ 定期的及び術後に患者が死亡した場合等に、手術記録、診療録等の確認、法令及び当院要項等の遵守状況の確認をし、病院長へ報告すること。
 - ④ 委員会での審査資料、議事概要及び法令・要項等の遵守状況の確認の記録の保管。（審査又は確認の日から少なくとも5年間）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（7件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ① 未承認新規医薬品等を用いた医療実施申請の内容確認及び評価委員会実施
 - ② 評価委員会の審議結果を申請診療科長等に通知し、病院長へ報告すること。
 - ③ 定期的及び術後に患者が死亡した場合等に、手術記録、診療録等の確認、法令及び当院要項等の遵守状況の確認をし、病院長へ報告すること。
 - ④ 委員会での審査資料、議事概要及び法令・要項等の遵守状況の確認の記録の保管。（審査又は確認の日から少なくとも5年間）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 269 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 44 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- ① 医療事故予防・防止に関する情報収集及び対策の検討
- ② 医療事故防止マニュアルの作成
- ③ 医療事故予防・防止の教育、研修の企画、立案及び実施
- ④ 医療事故が発生した場合における速やかな原因究明のための調査・報告及び分析
- ⑤ 医療事故の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び院内に勤務する者への周知
- ⑥ 医療事故の改善のための方策の実施状況の調査、及び必要に応じた当該方策の見直し
- ⑦ 医事紛争の予防・防止及びその対策
- ⑧ 医療法第6条の10の規定に定められている医療事故（当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であつて、当該管理者が当該死亡又は死産を予期しなかつたものとして厚生労働省令で定めるもの）が疑われる事例の検証

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：香川大学医学部附属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：防衛医科大学校病院）・無）

・技術的助言の実施状況

- ① インシデントレポート報告件数が病床数に比しやや少ない：医療安全ハンドブックに報告すべき範囲を追記し、医療安全研修会において報告を奨励した。R2年度は医師の報告数が増加している。
- ② 未承認新規医薬品のモニタリングで、一定期間使用状況を報告させることの検討：実施承認後、使用毎に報告を提出するように当該科へ依頼している。。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合患者支援センター内に、患者からの相談及び苦情全般に対応する部門を設置している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- ① 医療安全研修会「医療安全ハンドブック説明会」
平成31年4月11日、12日、16日～19日、24日開催
- ② 医療安全研修会「PICCカテーテル挿入講習会」令和元年6月18日～20日開催
- ③ 医療安全研修会「検査・手術前に中止すべき薬剤」令和元年6月27日開催
- ④ 医療安全研修会「BLS指導者講習会」・「BLS部署別講習会」
令和元年7月～令和2年3月開催
- ⑤ 医療安全研修会「輸血業務上の注意と輸血事故対応」令和元年9月6日開催
- ⑥ 医療安全研修会「静脈血栓塞栓症予防・治療マニュアルの作成と工夫」
令和元年10月16日開催
- ⑦ 医療安全研修会「TeamSTEPPS」令和元年11月16日開催
- ⑧ 医療安全研修会「インスリンを安全に使用するための基礎知識」令和元年11月27日開催
- ⑨ 医療機器安全管理研修会 令和元年12月20日開催
- ⑩ 医薬品安全管理研修会 令和2年2月21日開催
- ⑪ 内部通報について 平成31年4月2日、16日、令和元年5月17日、6月13日、7月10日、
8月7日、9月13日、10月8日、11月21日、12月6日、令和2年1月24日開催

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1

日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者・医薬品安全管理責任者・医療機器安全管理責任者

令和2年2月12日開催

2019年度 特定機能病院管理者研修(2回目以降受講対象)受講

(主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構)

医療安全管理責任者

令和元年10月11日開催

2019年度 特定機能病院管理者研修(2回目以降受講対象)受講

(主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <p>・ 基準の主な内容 国立大学法人弘前大学病院長の選考及び任期等に関する規程 第3条 病院長の資格は、本学の教授であって、かつ、次に掲げる要件を満たす者とする。 (1) 医師免許を有している者 (2) 医療安全確保のための必要な資質及び能力を有している者 (3) 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者 2 学長は、前項に定める要件の具体的内容について、選考を開始する前までに病院長選考基準(以下「選考基準」という。)として定め、公表するものとする。</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)</p> <p>・ 公表の方法 大学及び附属病院HPに掲載。</p>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> ・ 無			
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)</p> <p>・ 公表の方法 大学HPに掲載。</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
渡邊 淳平	理事(総務担当)	○	医学部附属病院を含む本学の経営等を担当する理事として	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
若林 孝一	医学研究科長		医学教育者の代表として	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
伊藤 悦朗	医学部附属病院副 病院長(総務担当)		医学部附属病院において診療を担当する医師の代表として	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
小林 朱実	医学部附属病院看護部長		医学部附属病院において業務を行う医療職員の代表として	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
實籾 好弘	中林裕雄法律事務所 弁護士		医療法律の専門家として(弘前大学臨床研究審査委員会委員)	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
山崎 祥子	東北女子大学名誉教授		一般、患者の立場の者として(弘前大学医学部附属病院監査委員会委員)	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

※当該「弘前大学医学部附属病院長候補者選考会議」は病院長候補者の選考が必要な場合に設置され、選考が完了したら廃止されることとなっているため、上記委員会は令和元年度当時のものとなっている。

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p style="padding-left: 40px;">弘前大学医学部附属病院運営会議：病院の運営方針、中期計画、予算及び決算 等</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p style="padding-left: 40px;">附属病院HP内の院内専用ページに掲載</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・(無)）</p> <p>・公表の方法</p> <p style="padding-left: 40px;">（附属病院HP内の院内専用ページに掲載（外部からはアクセス不可））</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・(無)）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大山 力	○	医師	病院長
大門 眞		医師	副病院長
袴田 健一		医師	副病院長
加藤 博之		医師	病院長補佐
石橋 恭之		医師	病院長補佐
萱場 広之		医師	病院長補佐
横山 良仁		医師	病院長補佐
富田 泰史		医師	病院長補佐
小林 朱実		看護師	病院長補佐・看護部長
小林 恒		歯科医師	歯科口腔外科科長
新岡 丈典		薬剤師	薬剤部長
村市 悟		事務職員	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
大学HPに掲載
- ・ 規程の主な内容
(人事等)
国立大学法人弘前大学管理運営規則
・ 病院長は、医学部附属病院を代表し、大学の方針に従い、医学部附属病院の管理運営をつかさどる。
弘前大学医学部附属病院規程 他
・ 副病院長、病院長補佐等執行役職員の推薦、指名、及び院内各部署等の長、院内各委員会委員の選考、指名、任命を行う。

(契約等)
国立大学法人弘前大学会計規則
・ 予算責任者を部局の長と定める。(病院長が予算責任者。)
国立大学法人弘前大学予算管理規程
・ 附属病院を予算部局に定める。
国立大学法人弘前大学会計機関等の事務及び職位等に関する規程
・ 契約担当役(会計機関)として病院長を指定する。(附属病院を含む本町地区部局の所掌に係る契約を担当)
- ・ 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割
副病院長 : 病院長の職務を助ける
(総務担当, 経営担当, 医療安全担当, その他)
病院長補佐 : 指定された事項を処理する
(教育・研修担当, 研究担当, 地域医療担当, 看護担当, その他)
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
令和2年2月17日開催の第2回病院経営次世代リーダー養成塾に、メディカルスタッフの代表を参加させた。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有) 無				
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 医療安全管理責任者、医療安全推進室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務について医学部附属病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>② 必要に応じ、学長又は医学部附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>③ ①又は②に掲げる業務について、その結果を公表すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>附属病院HPに掲載</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤野 安弘	青森県立中央病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
相馬 悌	黒石市国民健康保険 黒石病院院長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
長谷河 亜希子	弘前大学人文社会科学部 公共政策講座准教授		法律に関する識見を有する者	有・(無)	1
齋藤 久子	元青森大学准教授		医療を受ける者	有・(無)	2

大門 眞	弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座教授 (副病院長)		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	①・無	1
加藤 博之	弘前大学大学院医学研究科総合診療医学講座教授 (病院長補佐)		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	①・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

国立大学法人弘前大学コンプライアンス基本規則を制定し、コンプライアンス委員会を設置。
・学内にコンプライアンス総括責任者（理事（総務担当））を委員長とする「コンプライアンス委員会」を組織し、定期的な委員会開催により、法令遵守状況及び違反事項等の把握を行い、法令遵守の確保に努めている。
・全ての教職員を対象とした「コンプライアンス研修会」を実施し、外部講師を招いてコンプライアンス全般に対する意識向上、周知徹底を図った。ほか、研修会に参加することができなかった者に対しても、後日、研修資料をホームページ上で公開し、啓発に努めた。

・ 専門部署の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

弘前大学HPに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況																																																											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <ul style="list-style-type: none"> 病院の予算執行状況等，管理運営に関する重要事項について監督する。 ・①役員会 ・②経営協議会 ・③法人内部監査（定期） ・④監事監査（期末監事監査（監事ヒアリング）） ①②病院の管理運営や中期計画の進捗状況などの重要事項について審議を行う。 ③④調査票による病院の管理運営や中期計画の進捗状況などの重点事項の確認，及び病院長等へのヒアリング。 ・ 会議体の実施状況（年28回） <ul style="list-style-type: none"> ・①原則 月2回（8月を除く第1,3月曜日） ・②原則 年4回（6,11,1,3月） ・③④ 年1回 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無） <ul style="list-style-type: none"> （①年22回，②年4回，③④年1回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> 弘前大学HPに掲載 																																																											
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称： <ul style="list-style-type: none"> ・②経営協議会 ・③法人内部監査（定期） ・④監事監査（期末監事監査（監事ヒアリング）） 																																																											
会議体の委員名簿 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">氏名</th> <th style="width: 30%;">所属</th> <th style="width: 20%;">委員長 (○を付す)</th> <th style="width: 20%;">利害関係</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②経営協議会</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>福田 眞作</td> <td>国立大学法人弘前大学</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">(有)・無</td> </tr> <tr> <td>吉澤 篤</td> <td>国立大学法人弘前大学</td> <td></td> <td style="text-align: center;">(有)・無</td> </tr> <tr> <td>渡邊 淳平</td> <td>国立大学法人弘前大学</td> <td></td> <td style="text-align: center;">(有)・無</td> </tr> <tr> <td>郡 千寿子</td> <td>国立大学法人弘前大学</td> <td></td> <td style="text-align: center;">(有)・無</td> </tr> <tr> <td>若林 孝一</td> <td>国立大学法人弘前大学</td> <td></td> <td style="text-align: center;">(有)・無</td> </tr> <tr> <td>石川 隆洋</td> <td>国立大学法人弘前大学</td> <td></td> <td style="text-align: center;">(有)・無</td> </tr> <tr> <td>大山 力</td> <td>国立大学法人弘前大学</td> <td></td> <td style="text-align: center;">(有)・無</td> </tr> <tr> <td>安川 あけみ</td> <td>国立大学法人弘前大学</td> <td></td> <td style="text-align: center;">(有)・無</td> </tr> <tr> <td>青山 祐治</td> <td>青森県</td> <td></td> <td style="text-align: center;">有・(無)</td> </tr> <tr> <td>今井 高志</td> <td>株式会社日産サテリオ弘前</td> <td></td> <td style="text-align: center;">有・(無)</td> </tr> <tr> <td>岡井 眞</td> <td>岡井公認会計士事務所</td> <td></td> <td style="text-align: center;">有・(無)</td> </tr> <tr> <td>九戸 眞樹</td> <td>元弘前市教育委員会</td> <td></td> <td style="text-align: center;">有・(無)</td> </tr> </tbody> </table>				氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係	②経営協議会				福田 眞作	国立大学法人弘前大学	○	(有)・無	吉澤 篤	国立大学法人弘前大学		(有)・無	渡邊 淳平	国立大学法人弘前大学		(有)・無	郡 千寿子	国立大学法人弘前大学		(有)・無	若林 孝一	国立大学法人弘前大学		(有)・無	石川 隆洋	国立大学法人弘前大学		(有)・無	大山 力	国立大学法人弘前大学		(有)・無	安川 あけみ	国立大学法人弘前大学		(有)・無	青山 祐治	青森県		有・(無)	今井 高志	株式会社日産サテリオ弘前		有・(無)	岡井 眞	岡井公認会計士事務所		有・(無)	九戸 眞樹	元弘前市教育委員会		有・(無)
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係																																																								
②経営協議会																																																											
福田 眞作	国立大学法人弘前大学	○	(有)・無																																																								
吉澤 篤	国立大学法人弘前大学		(有)・無																																																								
渡邊 淳平	国立大学法人弘前大学		(有)・無																																																								
郡 千寿子	国立大学法人弘前大学		(有)・無																																																								
若林 孝一	国立大学法人弘前大学		(有)・無																																																								
石川 隆洋	国立大学法人弘前大学		(有)・無																																																								
大山 力	国立大学法人弘前大学		(有)・無																																																								
安川 あけみ	国立大学法人弘前大学		(有)・無																																																								
青山 祐治	青森県		有・(無)																																																								
今井 高志	株式会社日産サテリオ弘前		有・(無)																																																								
岡井 眞	岡井公認会計士事務所		有・(無)																																																								
九戸 眞樹	元弘前市教育委員会		有・(無)																																																								

木村 宏	株式会社東奥日報社弘前支社		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
櫛引 利貞	カネショウ株式会社		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
熊地 貴志	みちのく銀行		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
永澤 弘夫	弘前商工会議所		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
三國谷 勝範	預金保険機構		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
③法人内部監査			
加藤 恵吉	人文社会学部 教授	○	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
小菅 正裕	理工学研究科 教授		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
戸塚 学	教育学部 教授		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
今 秀徳	附属病院 経営企画課課長補佐		<input checked="" type="radio"/> 有・無
長谷川 公栄	国際連携本部 調整役		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
澤田 和則	法人内部監査室 室長補佐		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
櫻庭 晋	法人内部監査室 専門職員		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
④監事監査			
山内 浩	国立大学法人弘前大学 監事		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
吉田 房子	国立大学法人弘前大学 監事		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">・ 附属病院HPに掲載・ 新採用者オリエンテーションで説明・ 医療に係る安全管理等の研修で説明